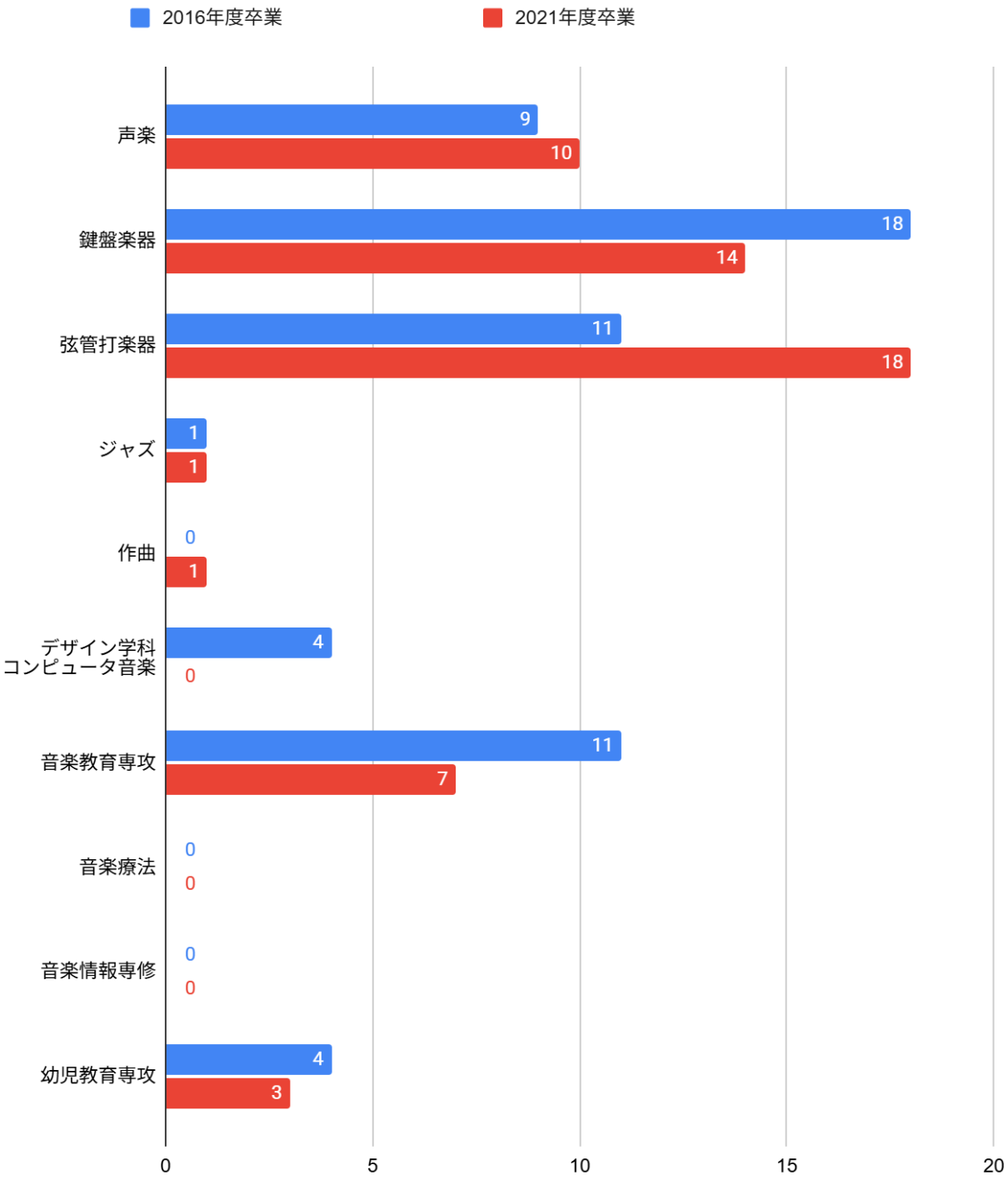
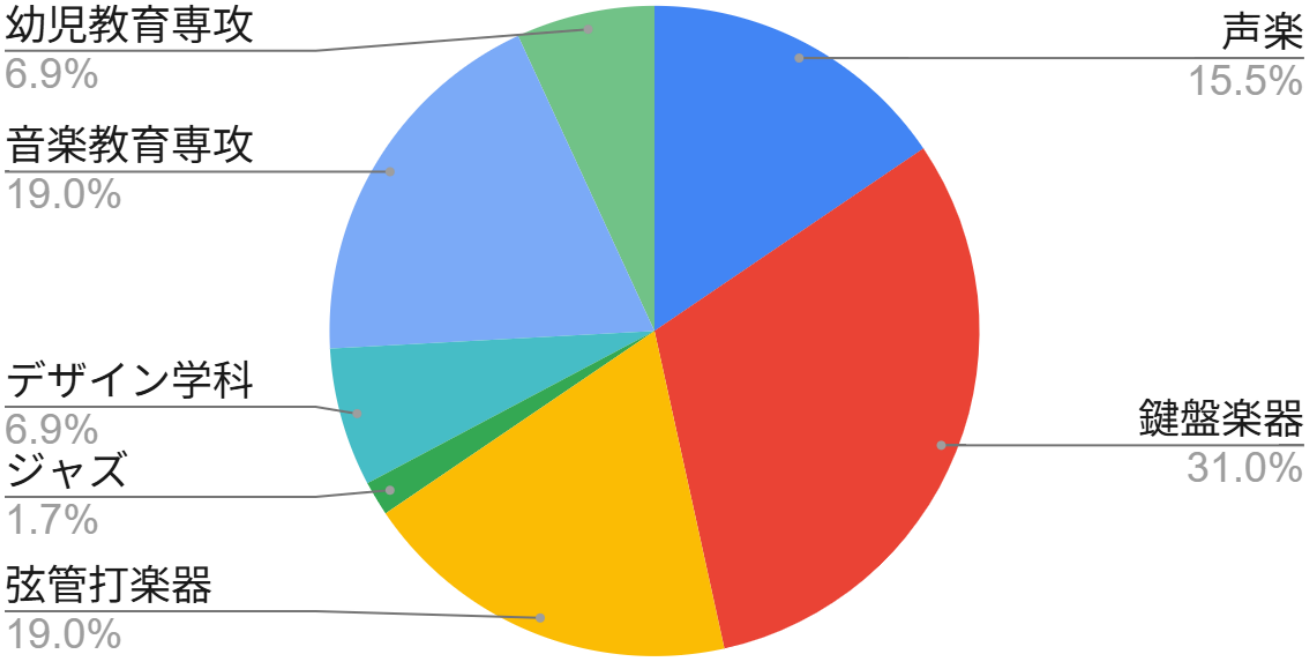
卒業生アンケート

【対象者】卒業 10 年目（2016 年度学部卒）408 名／卒業後 5 年目（2021 年度学部卒）314 名
【回答者】卒業 10 年目（2016 年度学部卒）58 名／卒業後 5 年目（2021 年度学部卒）54 名
【回答率】卒業 10 年目（2016 年度学部卒）14.2%／卒業後 5 年目（2021 年度学部卒）17.2%
【実施期間】2026 年 7 月 24 日（金）～9 月 24 日（木）
【実施方法】郵送でアンケートを送付し、専用の Web サイトから回答。

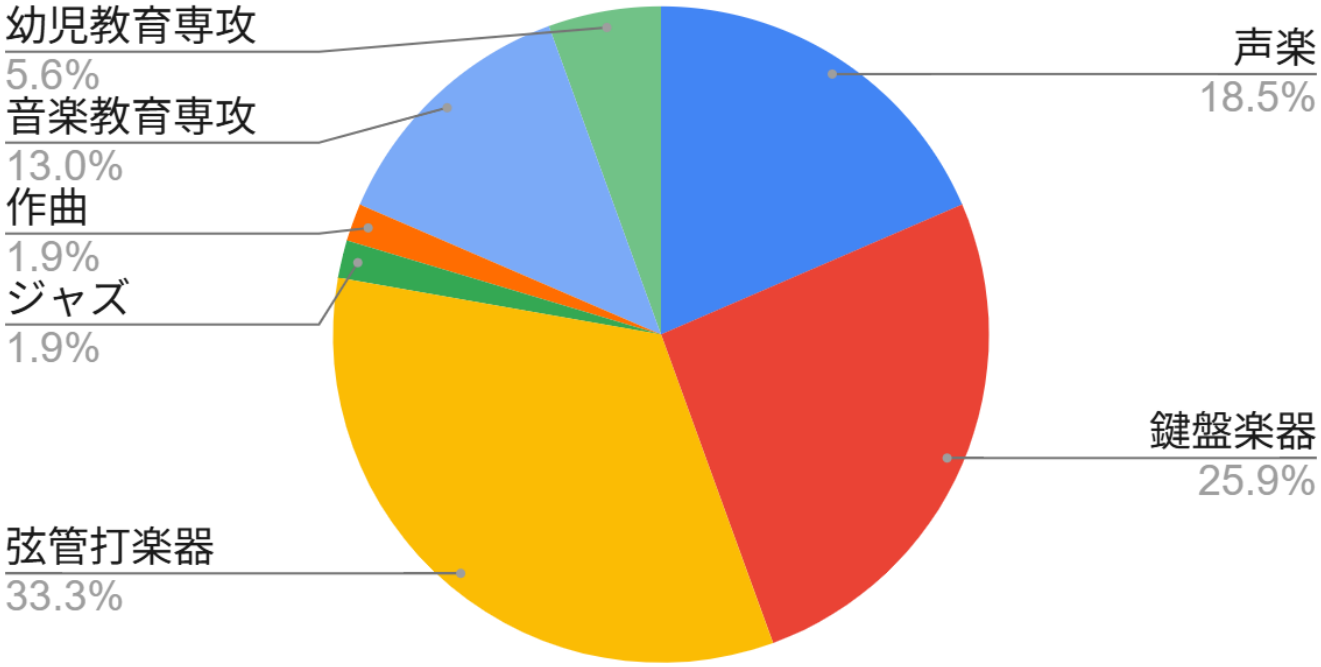
1.在学時の専攻を選択してください。



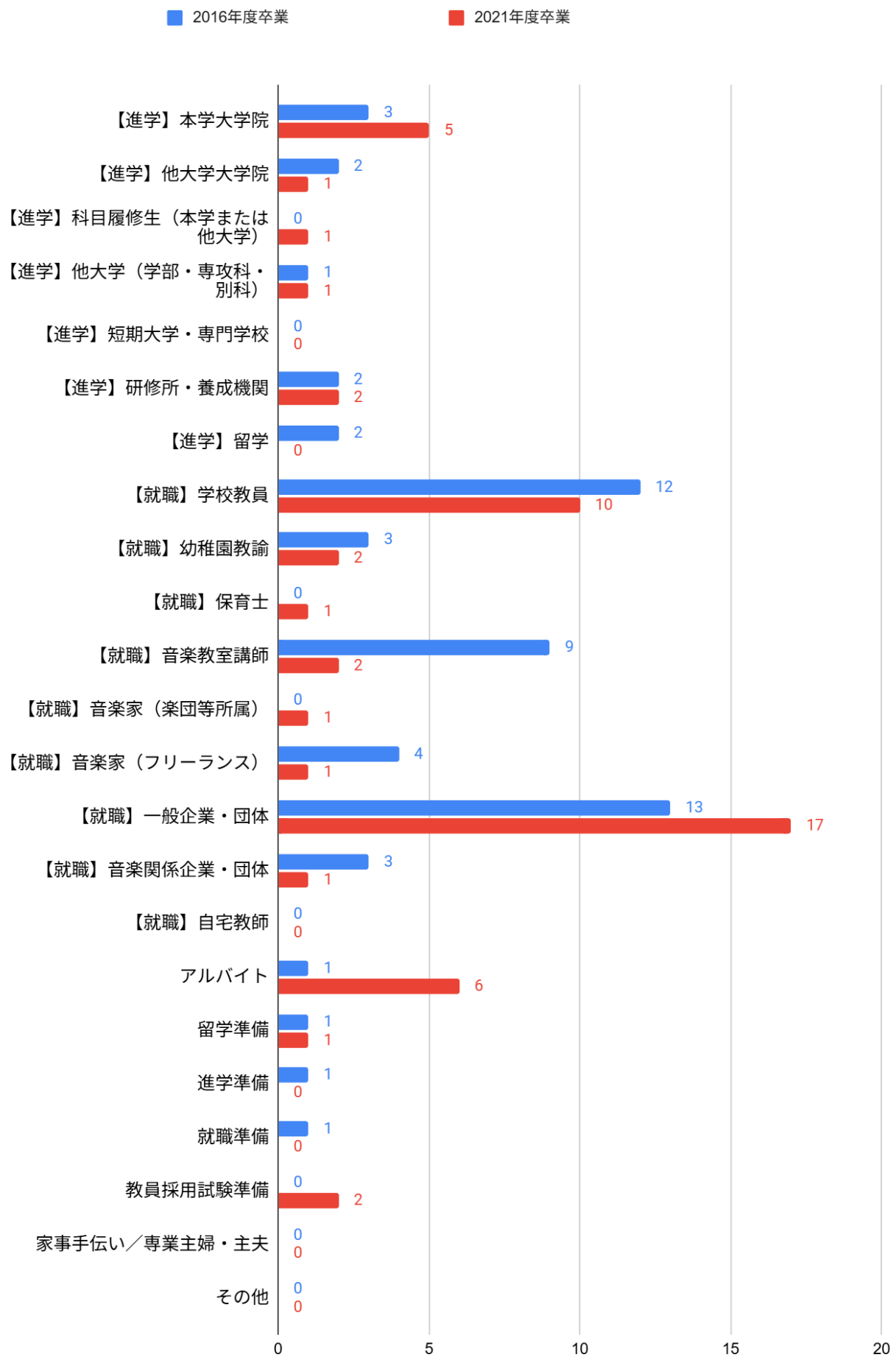
2016年度卒業
（2017年3月卒業）



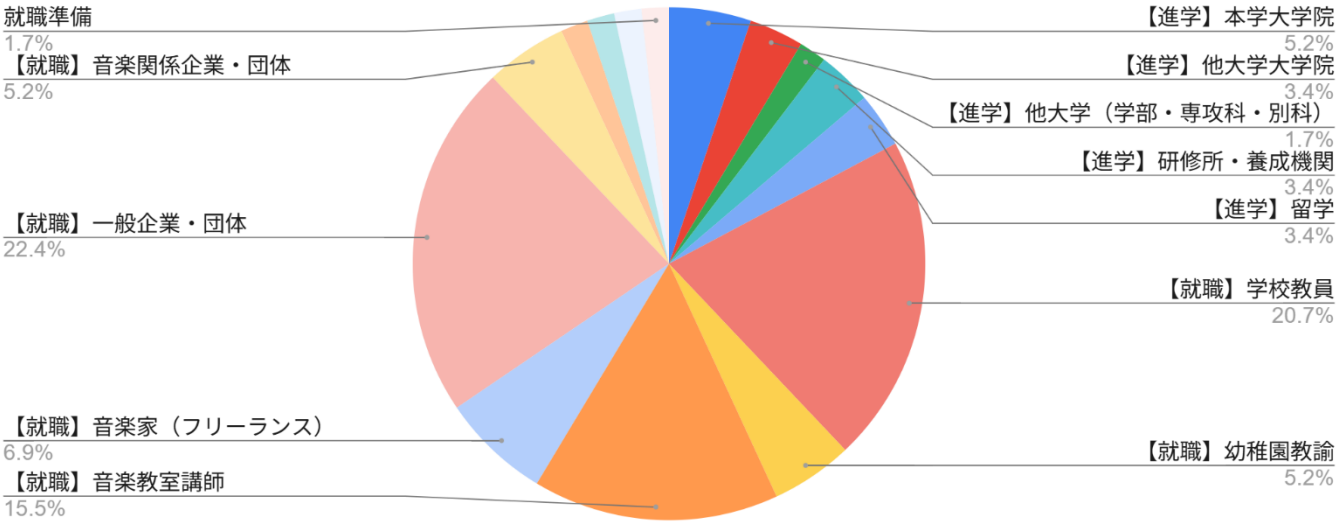
2021年度卒業
（2022年3月卒業）



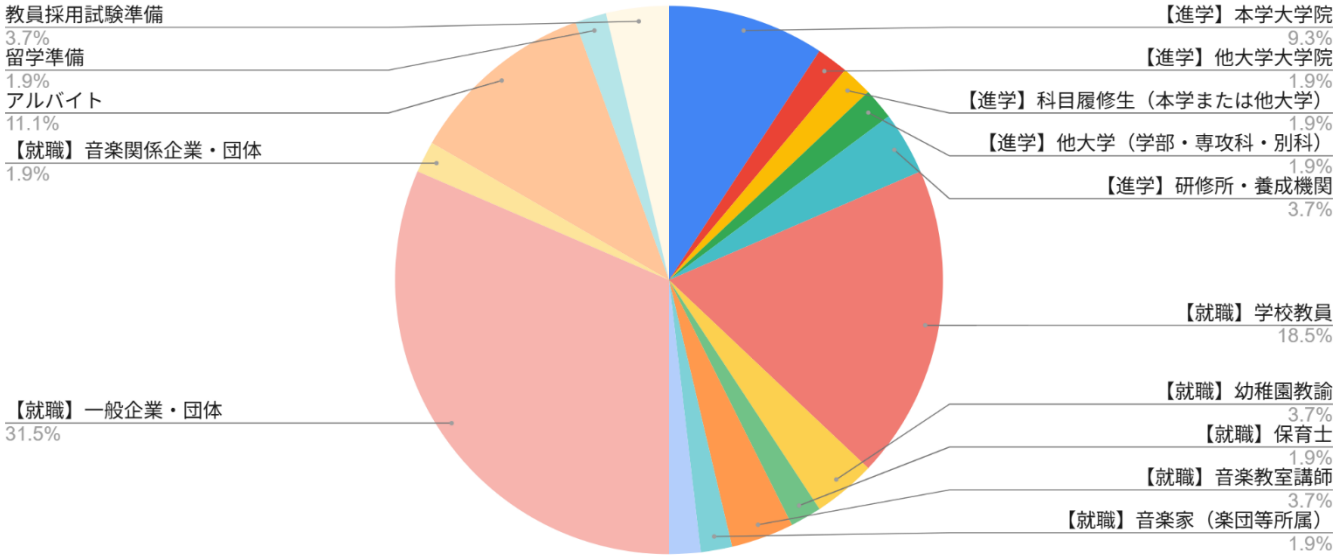
2.卒業後１年目の主な進路を選択してください。



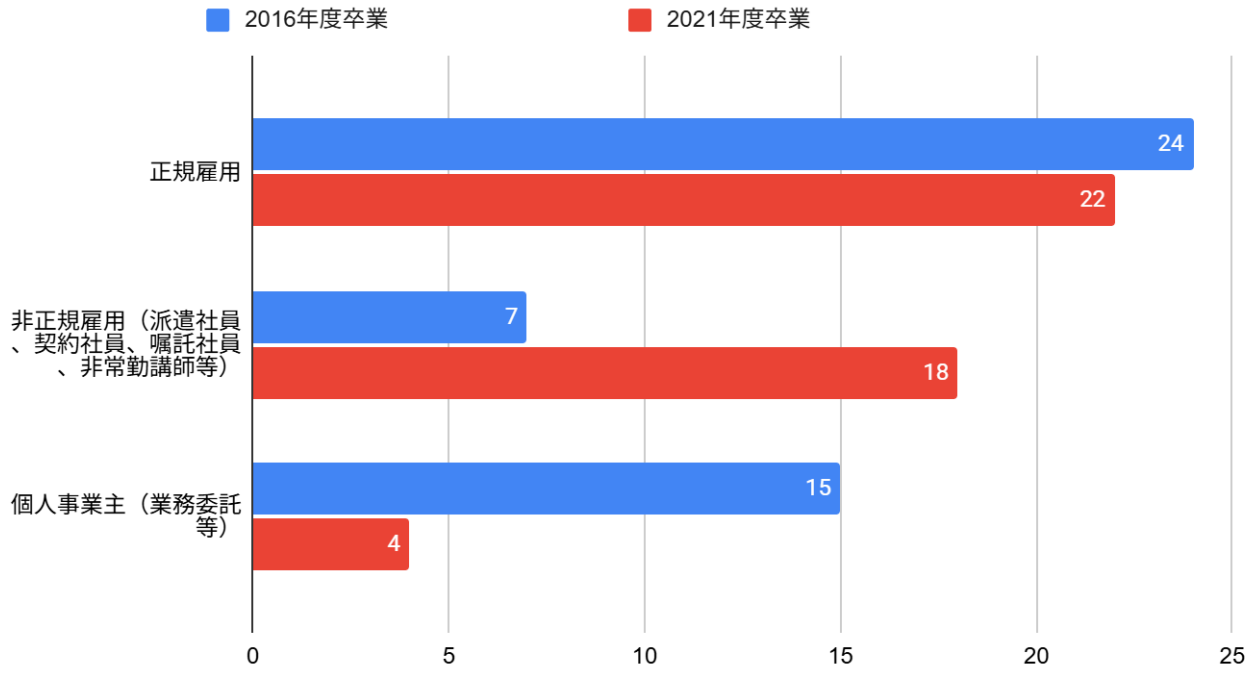
2016年度卒業
（2017年3月卒業） と

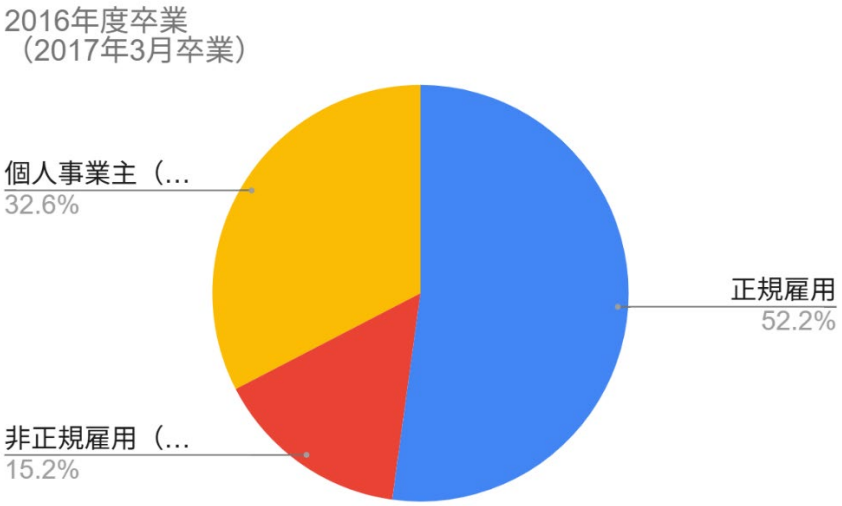


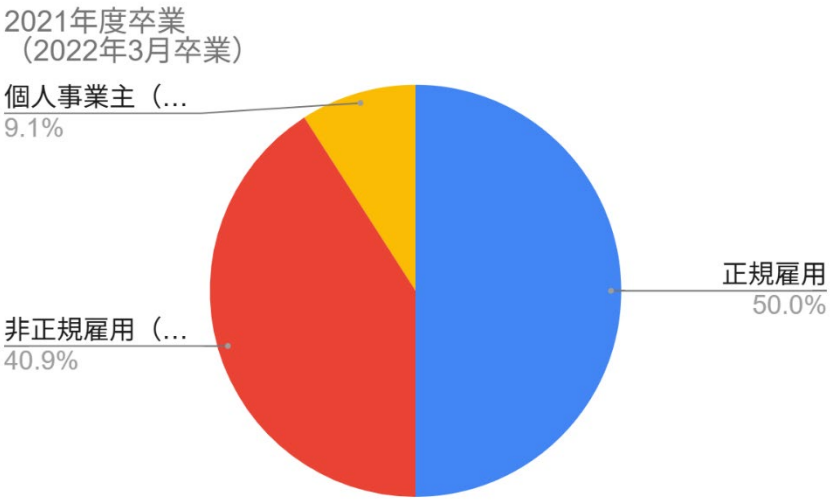
2021年度卒業
（2022年3月卒業） と



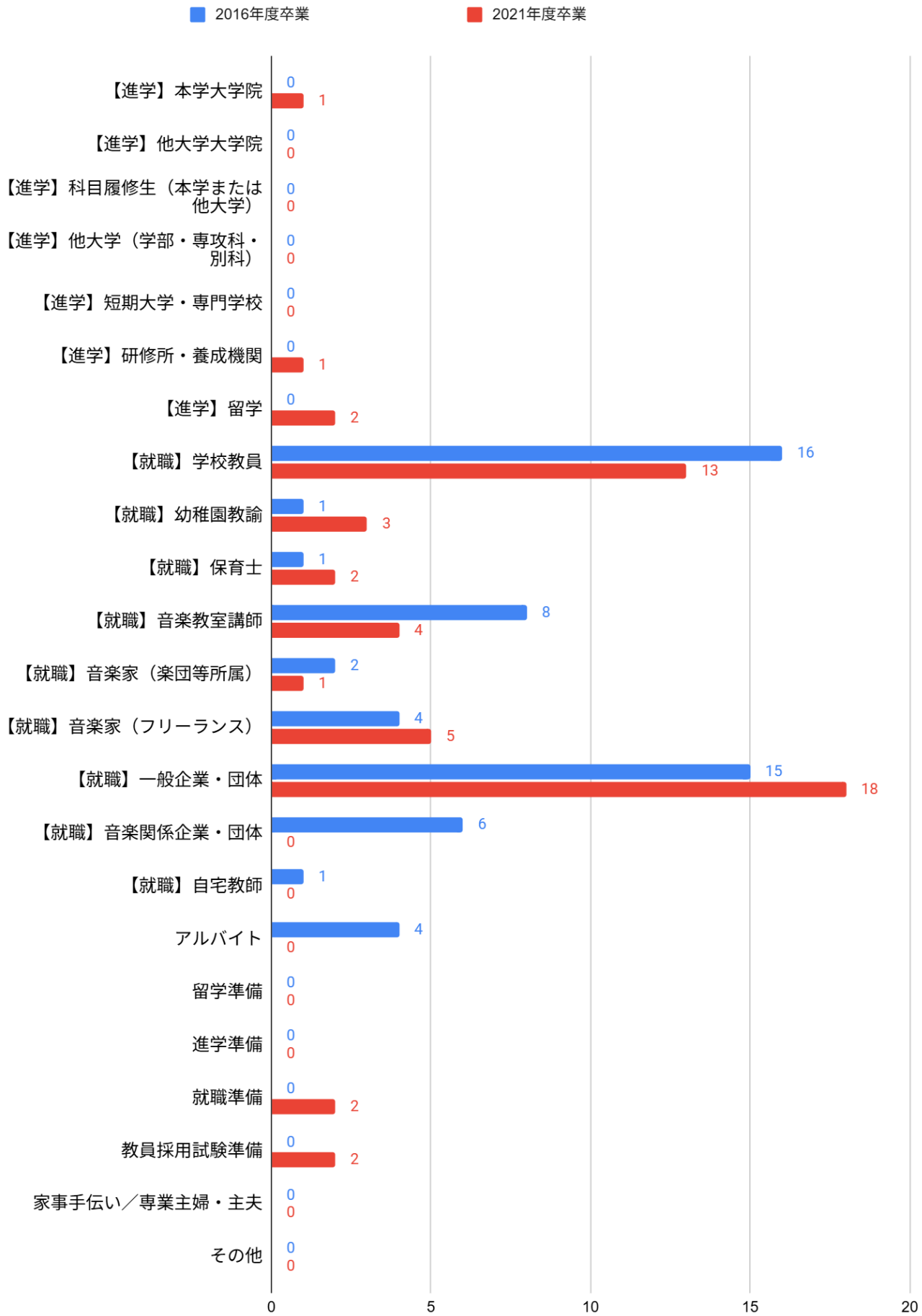
3.【2 で就職を選択した方のみ】卒業後 1 年目の状況として当てはまるものをお知らせください（雇用形態）。



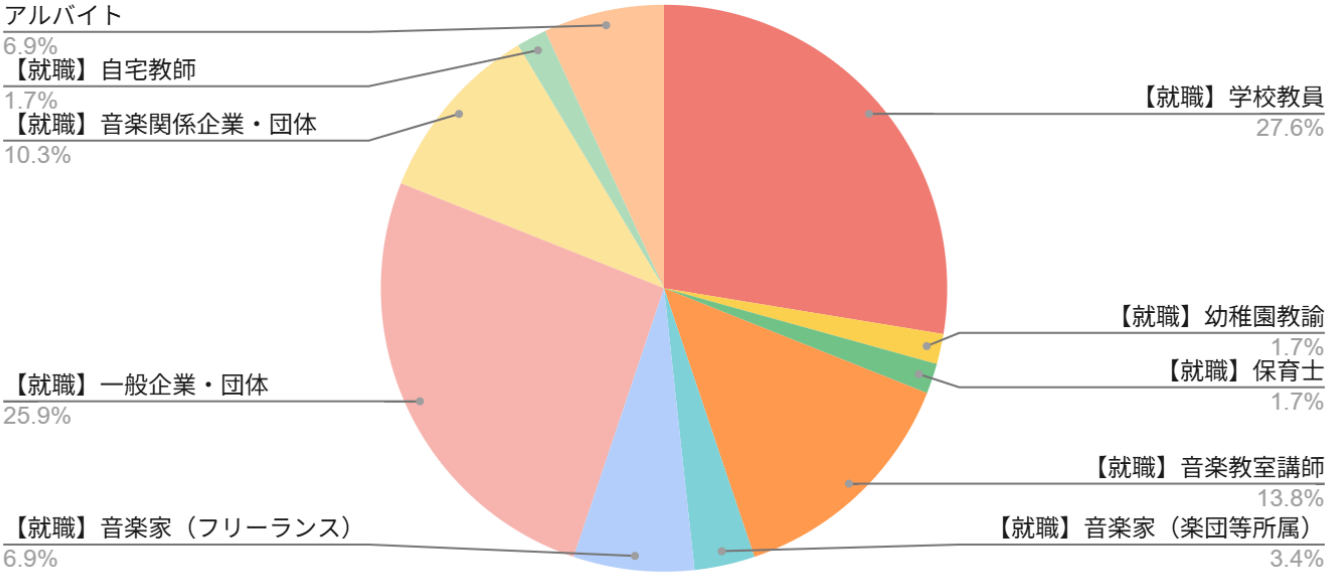




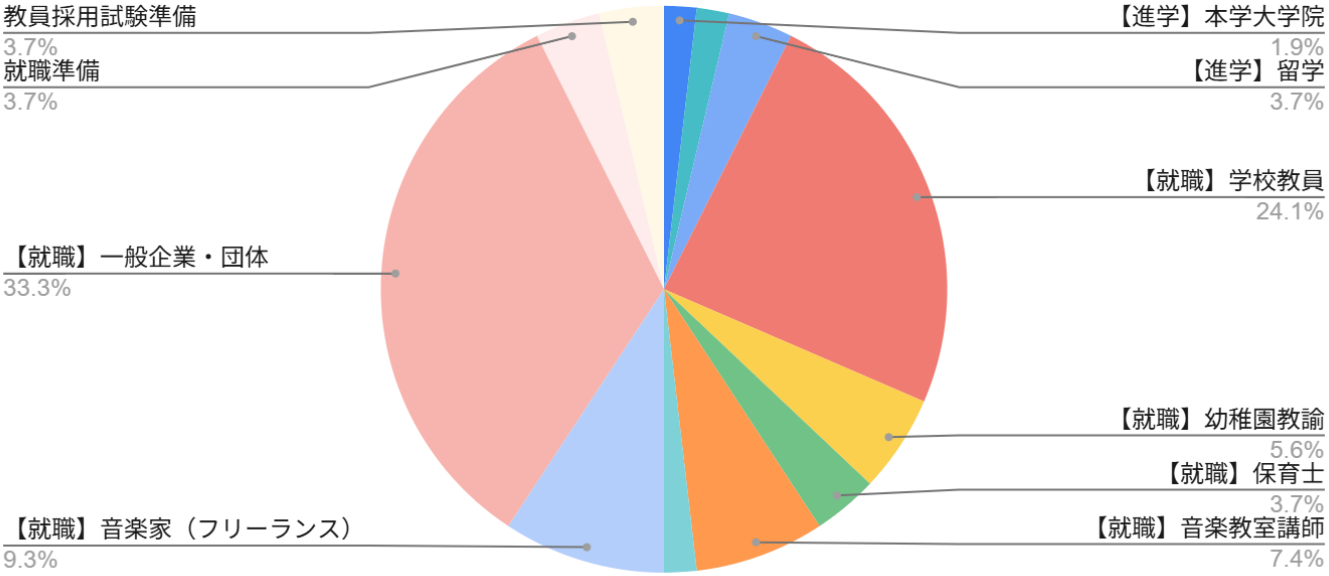
4.現在の状況を選択してください。



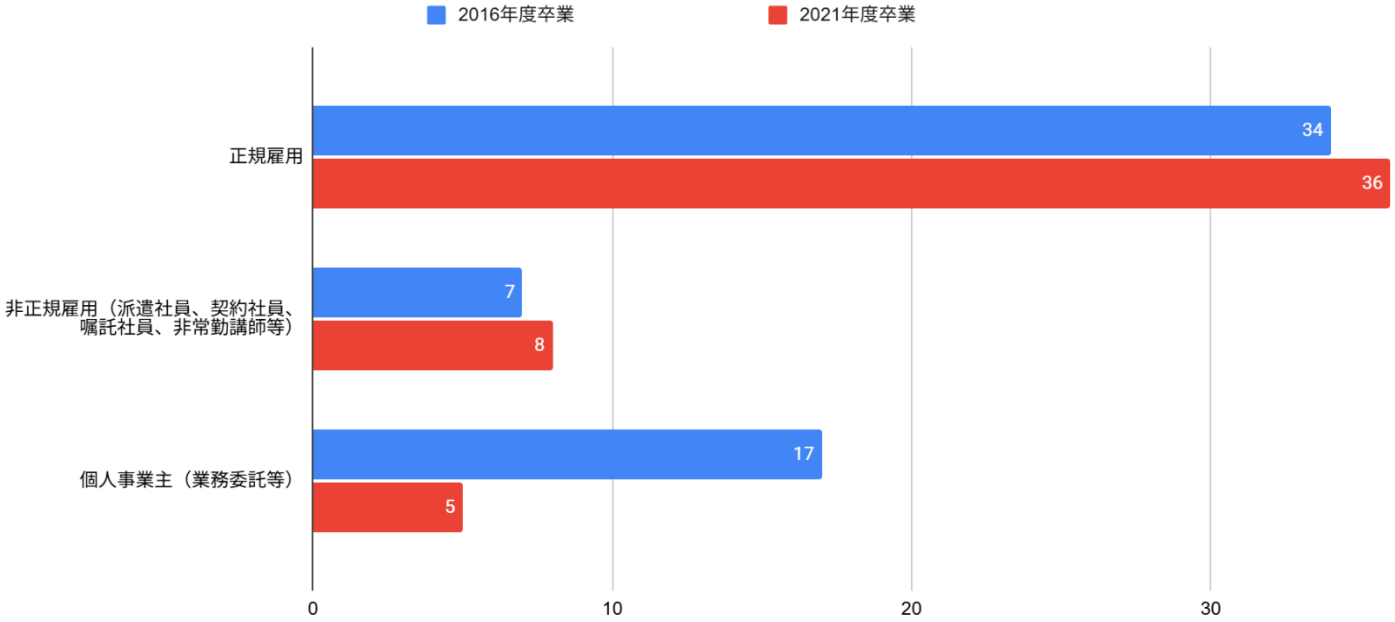
2016年度卒業
（2017年3月卒業）

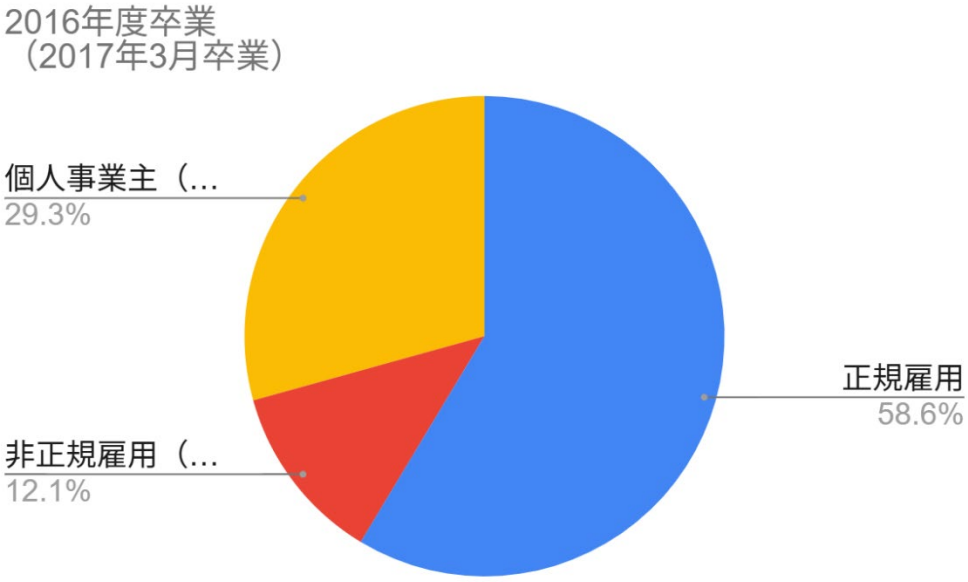


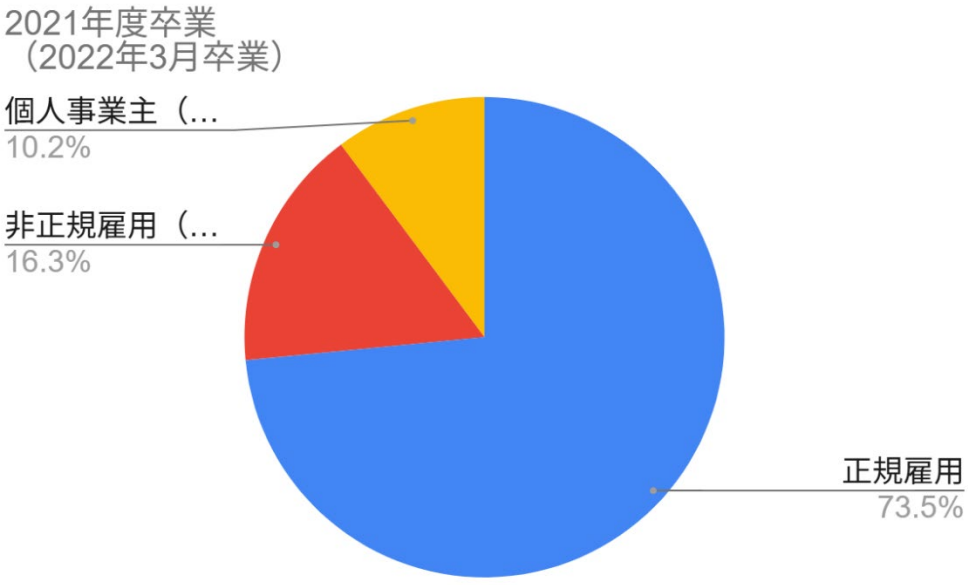
2021年度卒業
（2022年3月卒業）



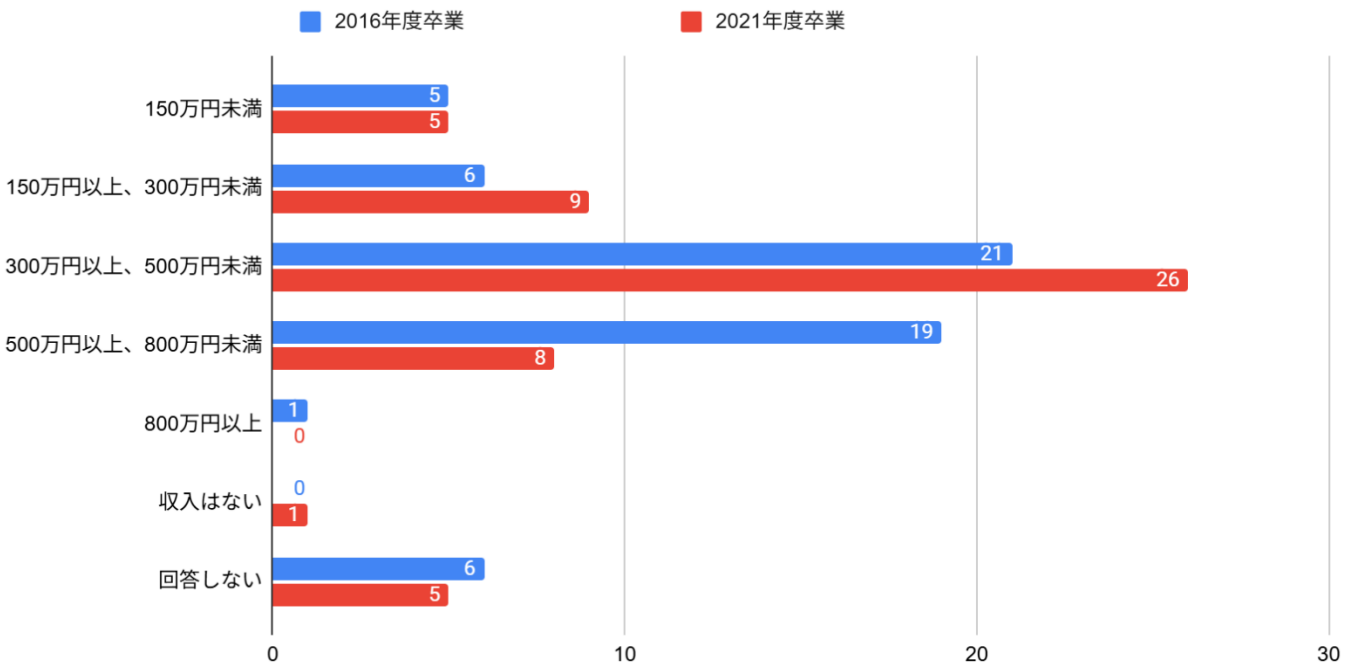
5.【4 で就職を選択した方のみ】現在の状況として当てはまるものをお知らせください。（雇用形態）



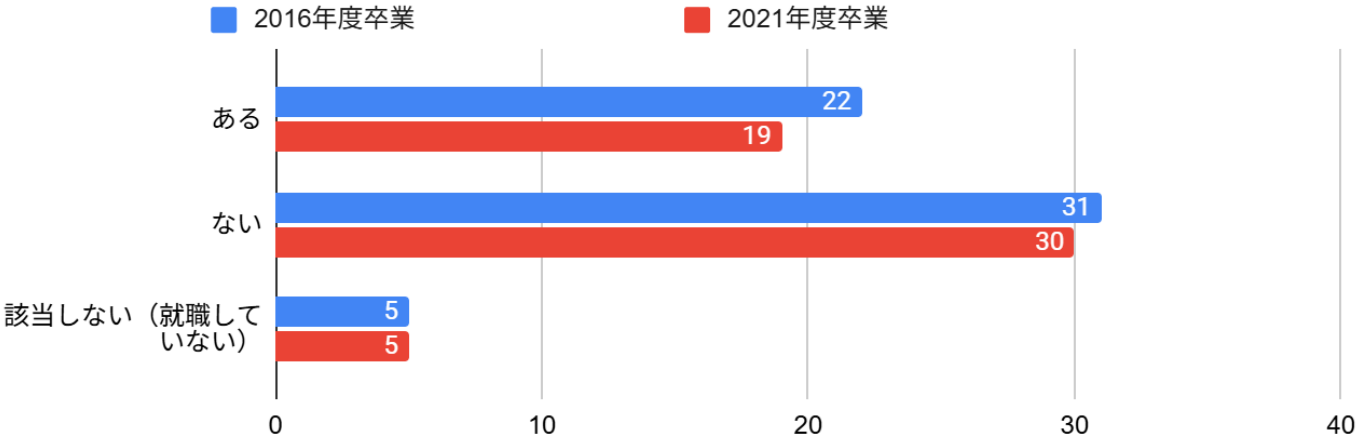




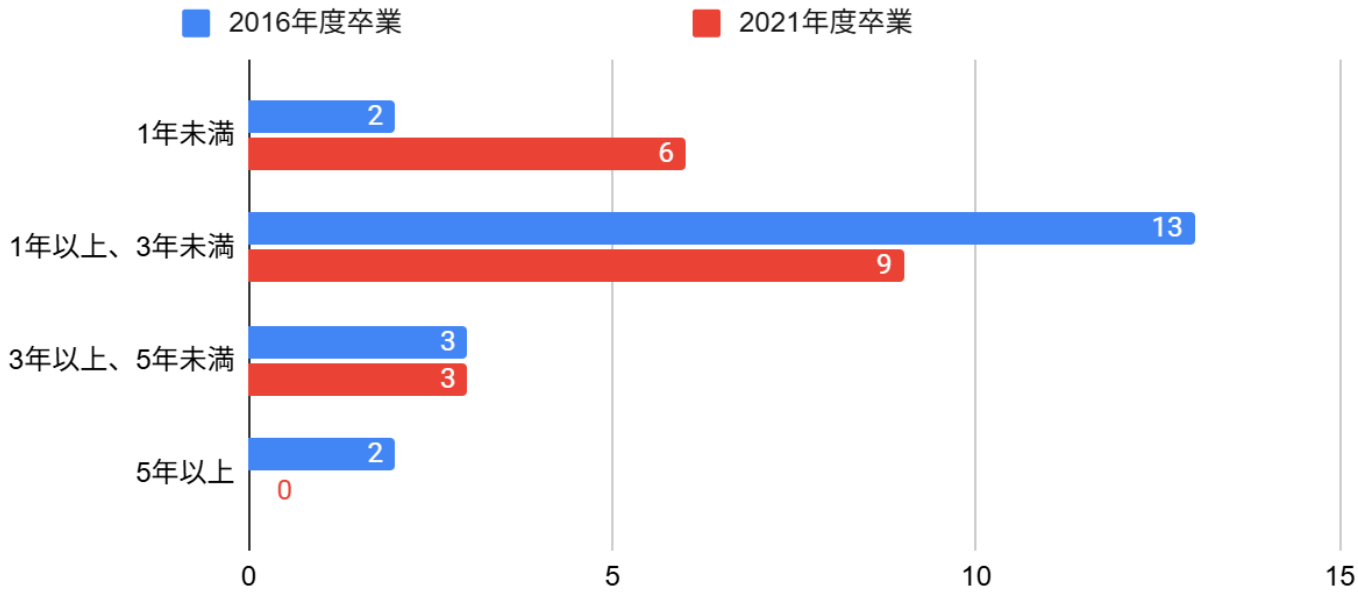
6.差し支えなければ、現在の年収を教えてください。

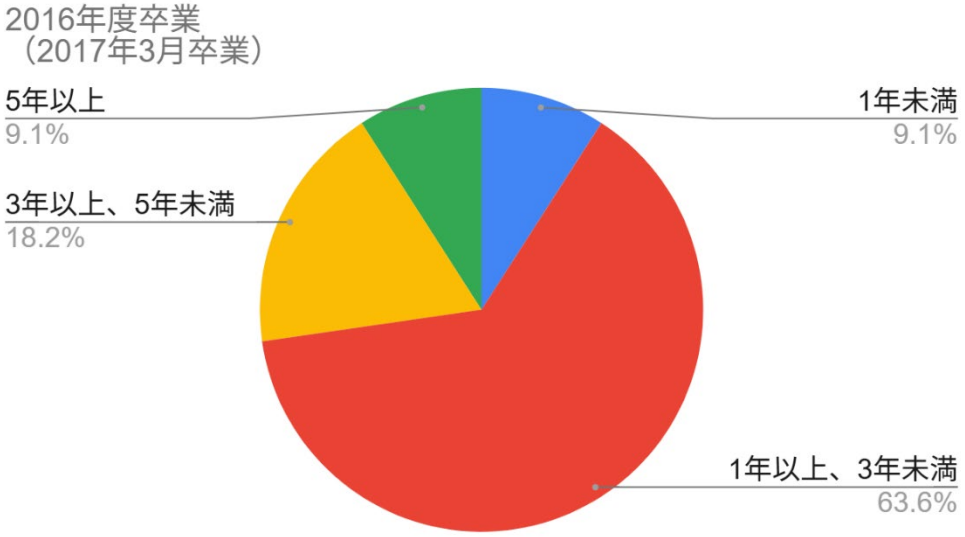


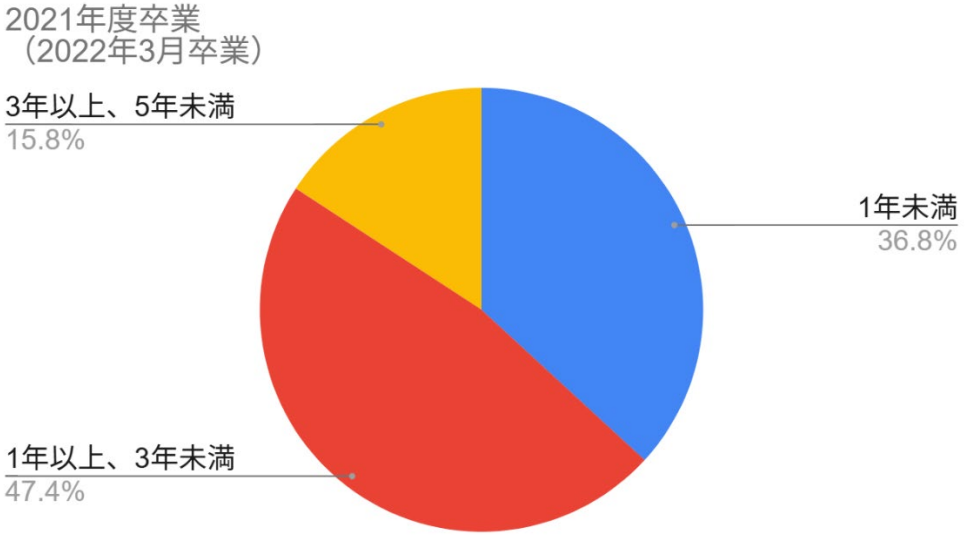
7.今までに転職・退職をしたことがありますか。



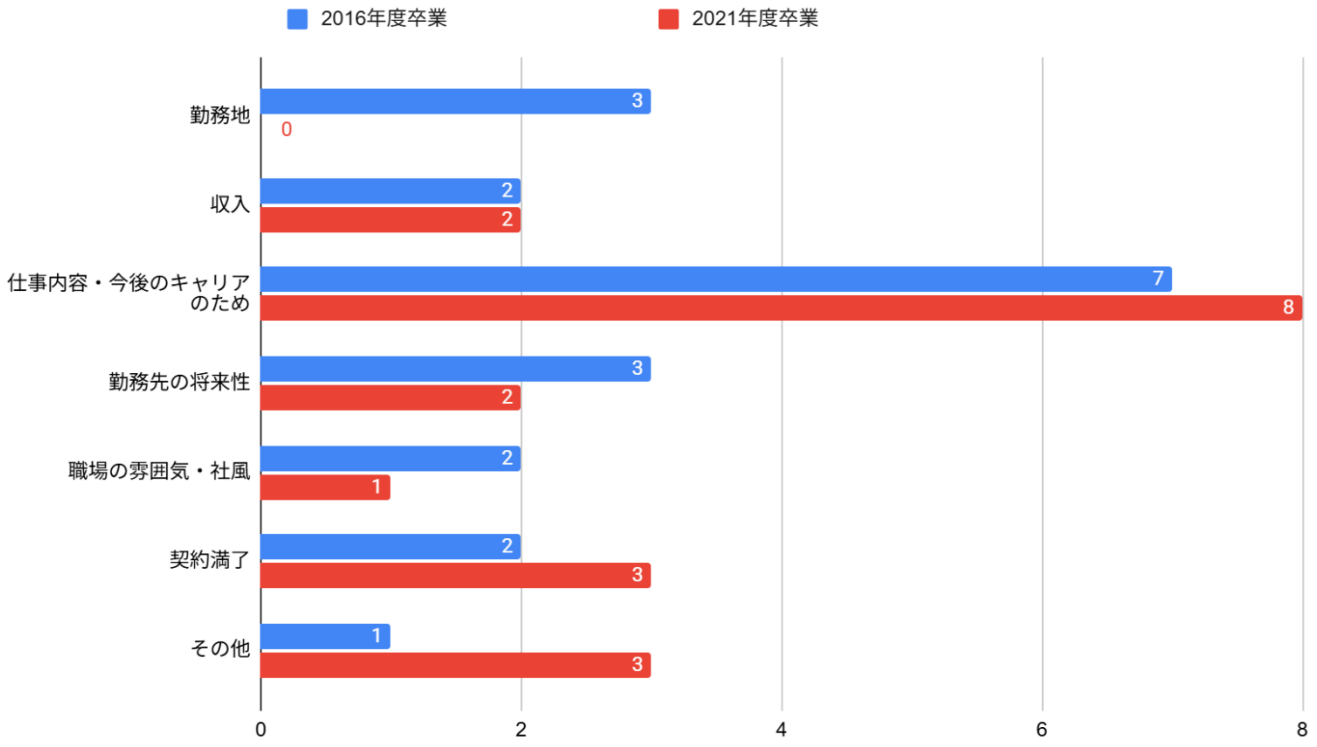
8.最初の就職先には何年間勤めましたか。

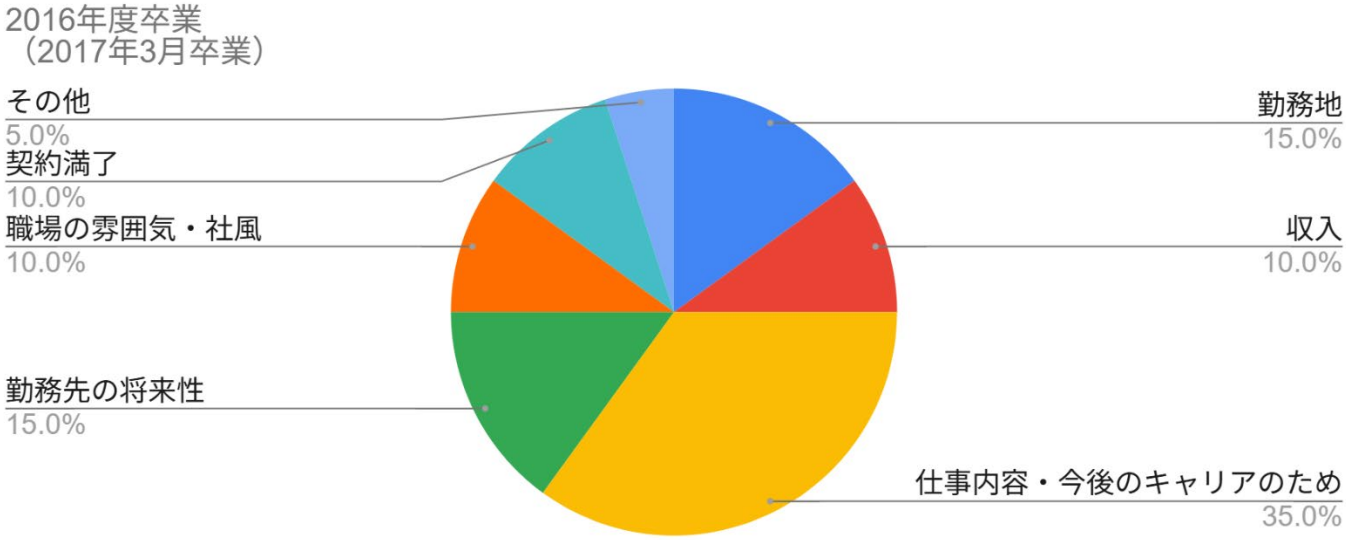


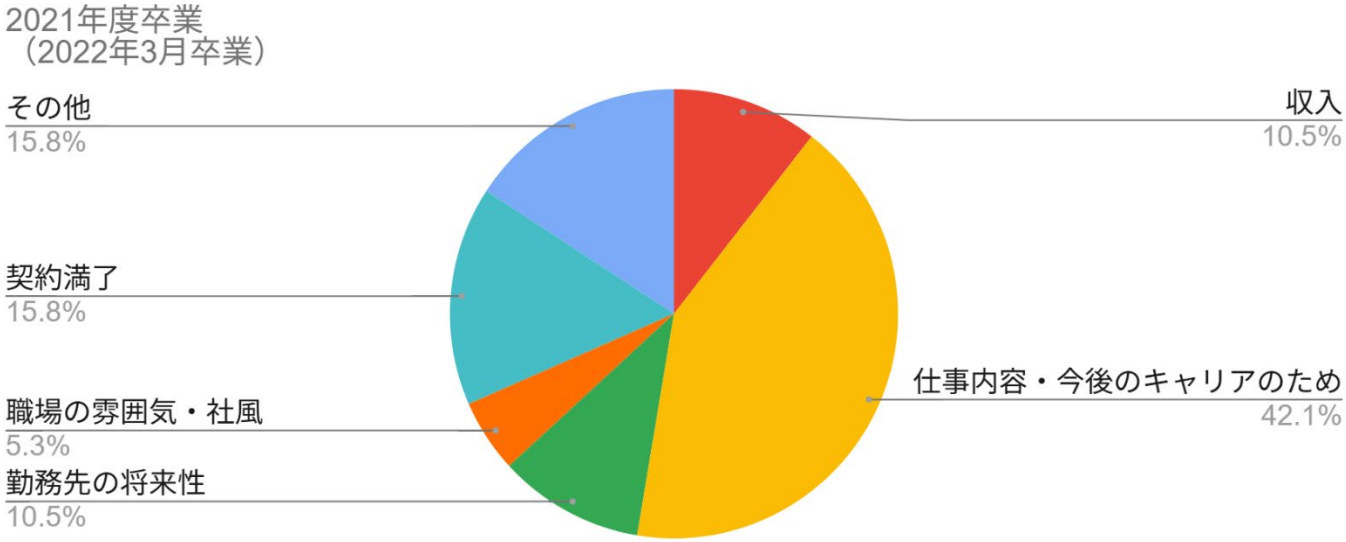




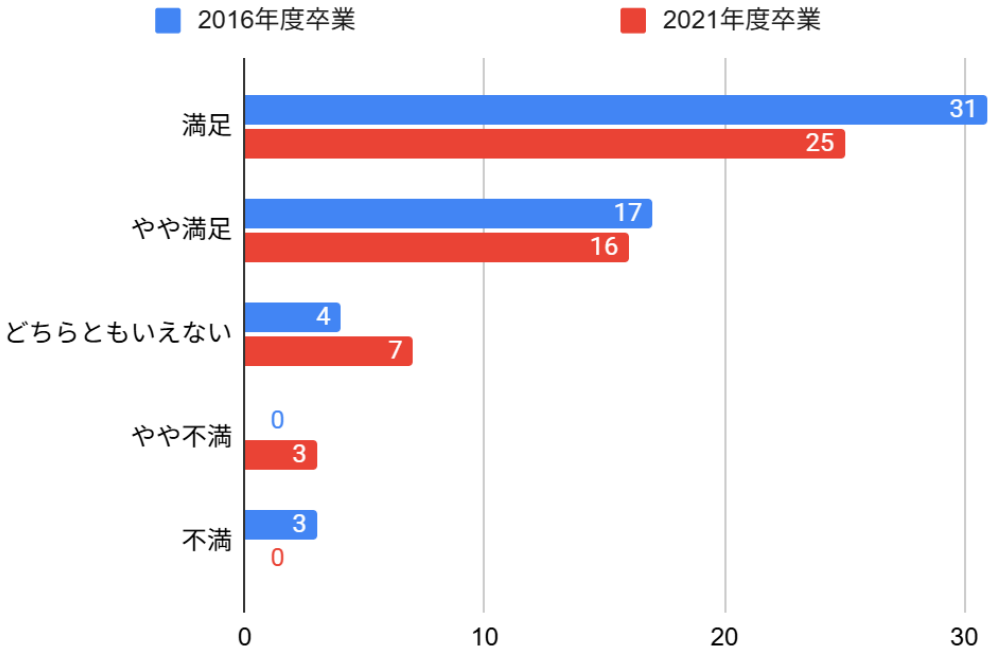
9.転退職をした要因として最も当てはまるものを選択してください。

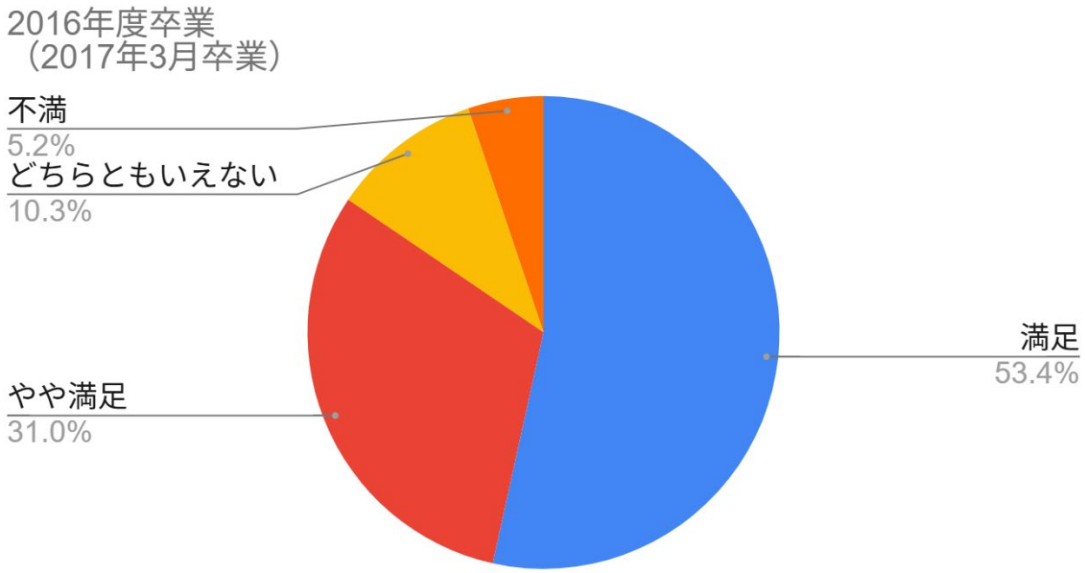


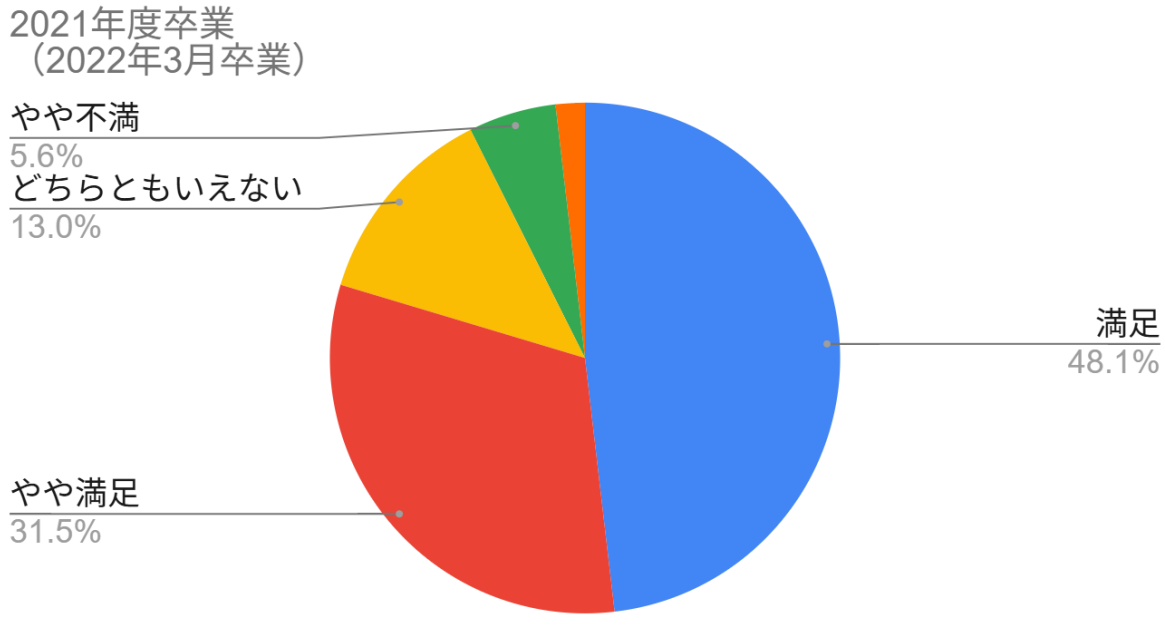




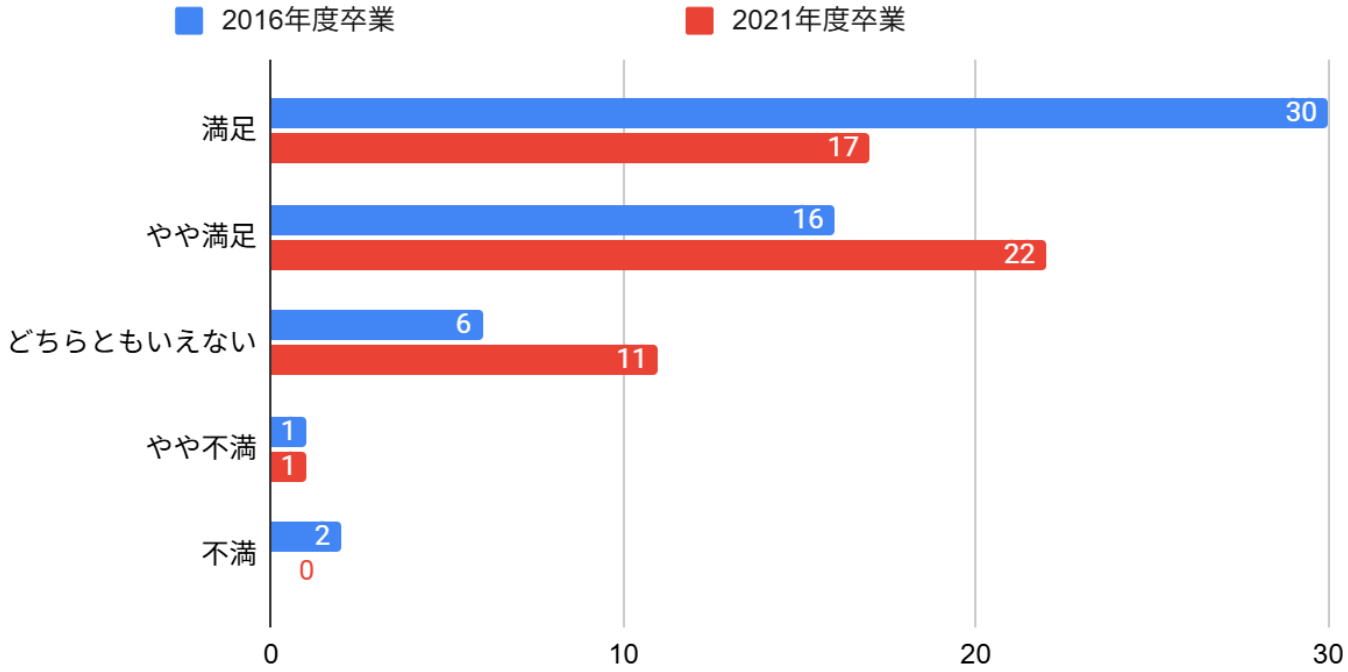
10.現在の状況に満足していますか。

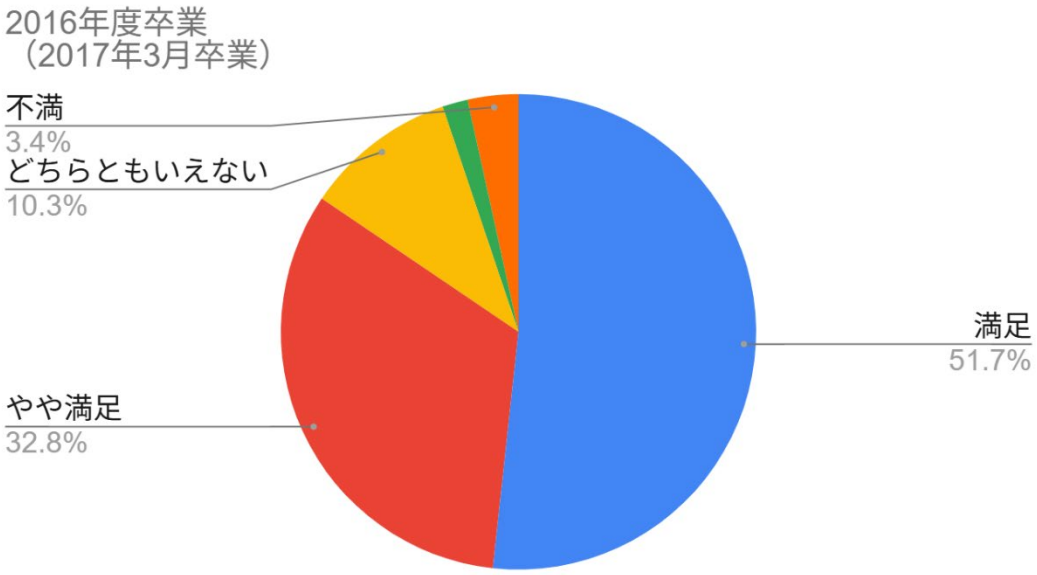


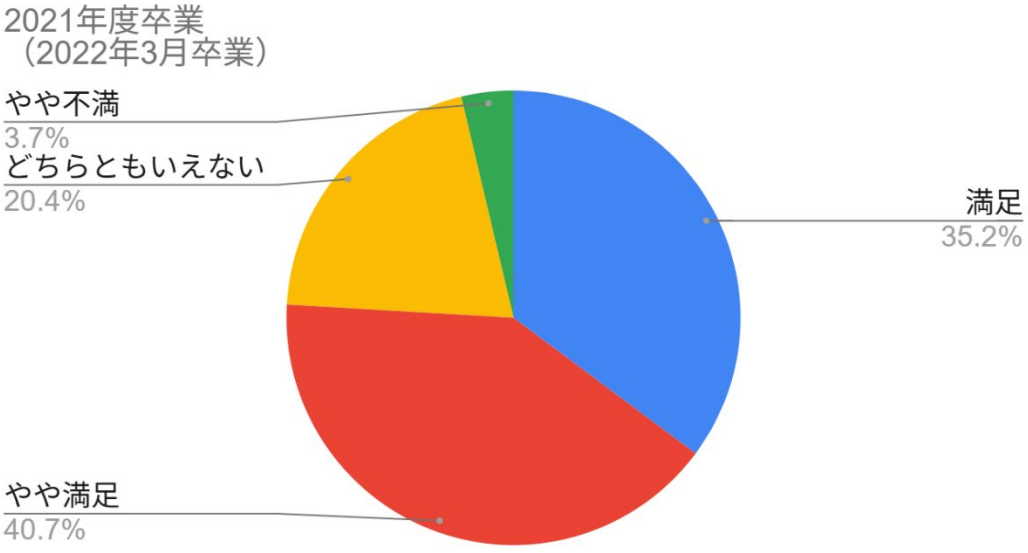




11. 国立音楽大学での学生生活全体を振り返って、どの程度満足していますか。







12. 前問のように回答された理由を教えてください。【任意】※要約版

＜満足・やや満足＞

先生方の手厚い指導や、友人・仲間とのつながり、充実した学習環境について高く評価する意見が多く見られた。また、在学中に身につけた音楽の知識・演奏技術や、多様な授業・コースでの学び、舞台経験などが、現在の仕事や活動に活かされているとの声も多かった。

一方で、コロナ禍により授業、演奏活動、海外研修、学生同士の交流などが制限され、十分な大学生活を送れなかったことを残念に感じる意見が複数見られた。そのほか、舞台に立つ機会の偏りや発表機会の少なさ、学費負担、卒業後を見据えた音楽教室経営など実務的な知識を学ぶ機会を求める意見もあった。

＜どちらともいえない＞

コロナ禍による授業・活動の制限や、通常とは異なる授業形態などにより、十分な学生生活を送れなかったとの意見が多く見られた。特に、活動機会が限られたことや、授業を十分に受けられない中でも学費負担が変わらなかったことへの不満が挙げられている。

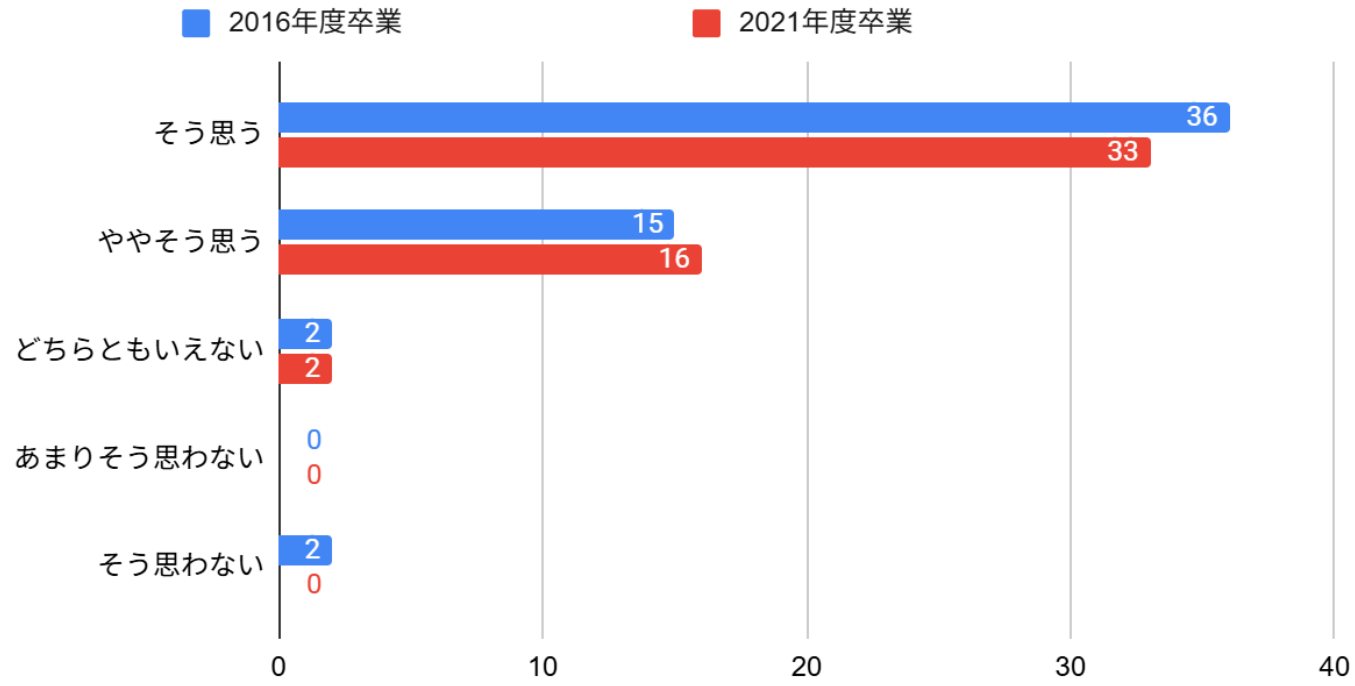
また、進路や将来について考える機会、大学からのキャリア支援・情報提供が十分に感じられなかったとの意見や、卒業後に社会に出て初めて分かることが多かったとの声もあった。そのほか、レッスン室の使いにくさ、大学の環境を十分に活かせなかったことへの後悔、学生生活に対して強い充実感を持てなかったとする意見も見られた。

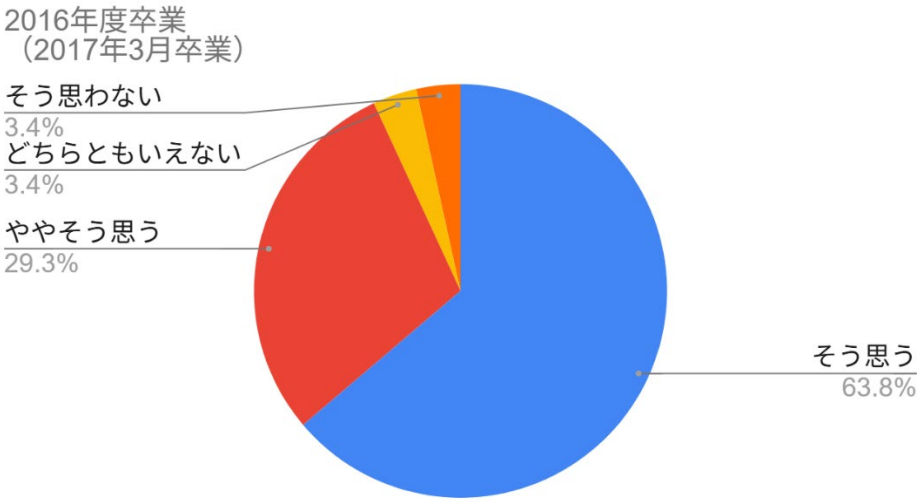
＜不満・やや不満＞

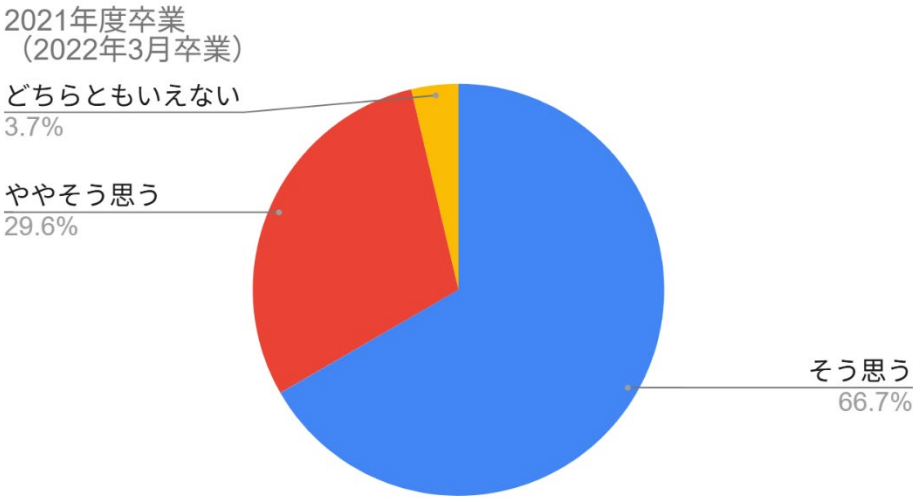
カリキュラムや成績評価、卒業試験・卒業演奏会の選考基準について、負担の大きさや評価基準の不透明さ、公平性に疑問を感じたとの意見があった。また、卒業後の進路やキャリアを見据えた教育・支援、学外での演奏・仕事につながる機会が十分ではなく、他大学と比べて学生へのサポートや実践的な機会が少ないと感じたとの声も見られた。

そのほか、立地や学生数の多さによる活動機会の少なさ、施設・設備と学費負担のバランスについての不満が挙げられている。また、コロナ禍の影響により、十分な学生生活を送ることができなかったとの意見もあった。

13. 国立音楽大学での学びや経験は、卒業後に良い影響を与えていると思いますか。







14．前問のように回答された理由を教えてください。【任意】※要約版

＜そう思う・ややそう思う＞

大学で身につけた演奏技術や音楽的知識、コースでの専門的な学びが、現在の仕事や指導、演奏活動に直接活かされているとの意見が多く見られた。特に、教員・講師、保育、演奏活動など音楽に関わる仕事において、実技力や音楽性、在学中の経験が大きな支えとなっているとの声が多かった。また、先生方や仲間との出会い、多様な価値観に触れた経験、学生主体の活動などを通じて、自主性・社会性・視野の広さが身についたとの意見もあった。さらに、社会人としてのマナーや礼儀、目上の人との接し方、仕事への姿勢など、音楽以外の面でも大学での経験が現在の仕事に役立っているとする声が見られた。

一方で、一部には実践的な職業教育や現場に即した学びが十分ではなかったと感じる意見もあった。

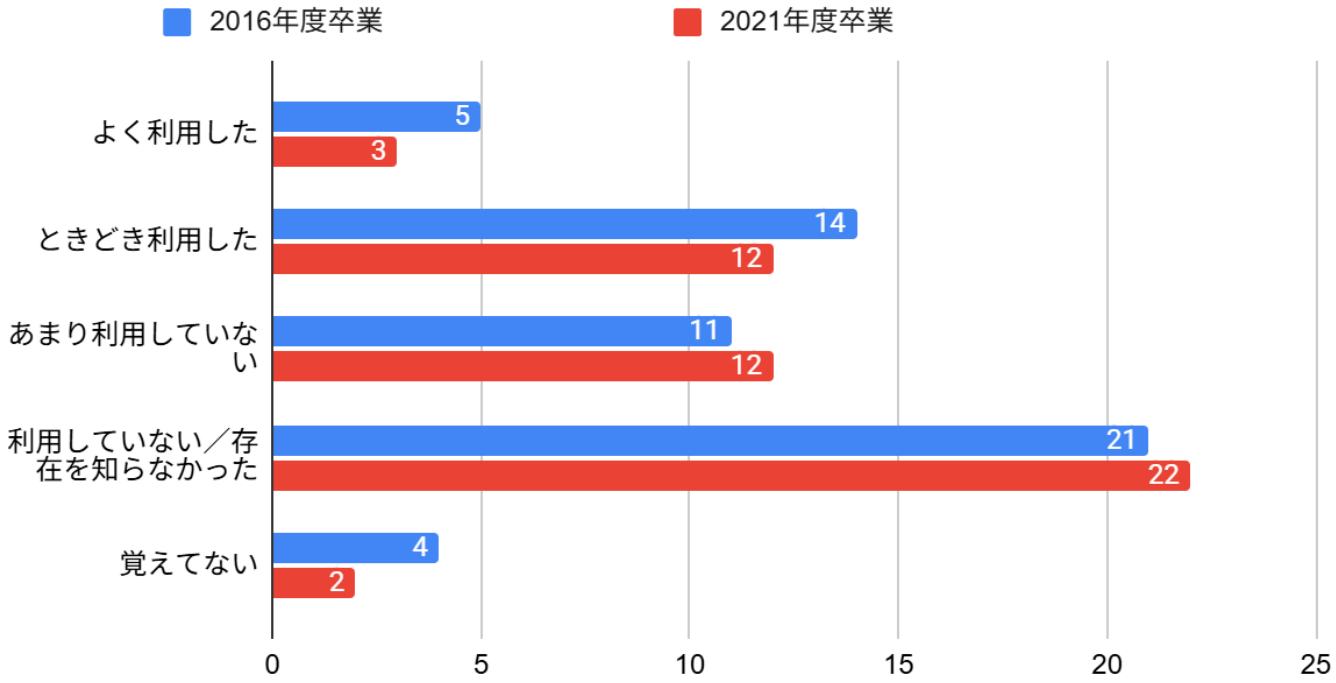
＜どちらともいえない＞

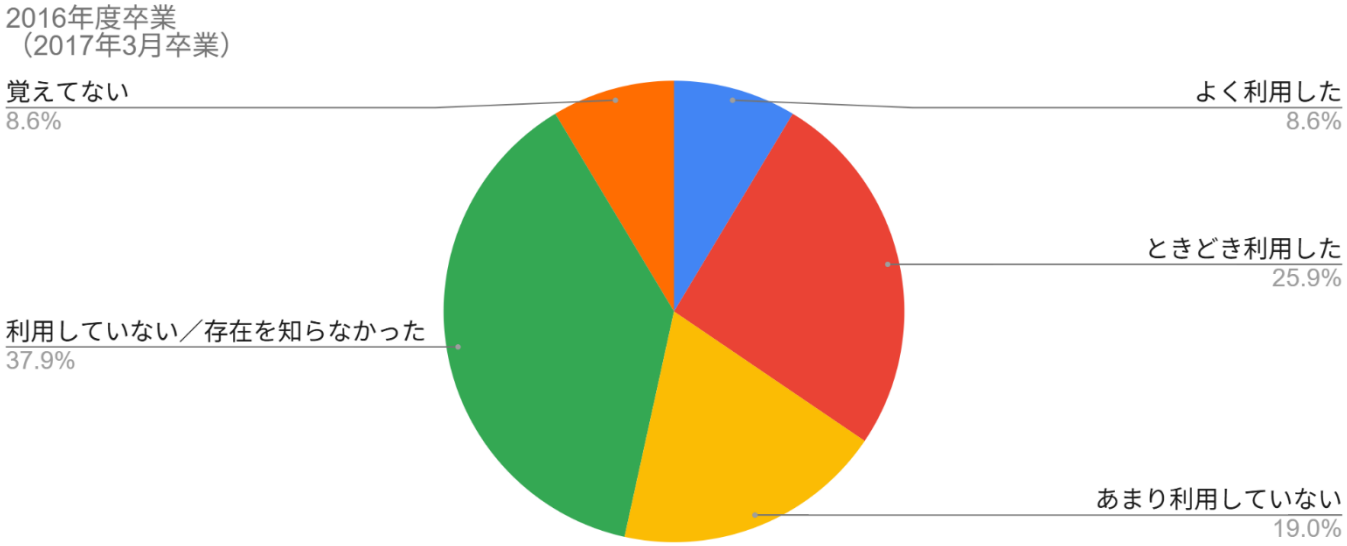
学部での学びが現在に十分活かされている実感がなく、何を得たのか分かりにくかったとの意見があった。また、現在につながる学びや経験は、学部ではなく修士課程のゼミで得たものだったとの声も見られた。

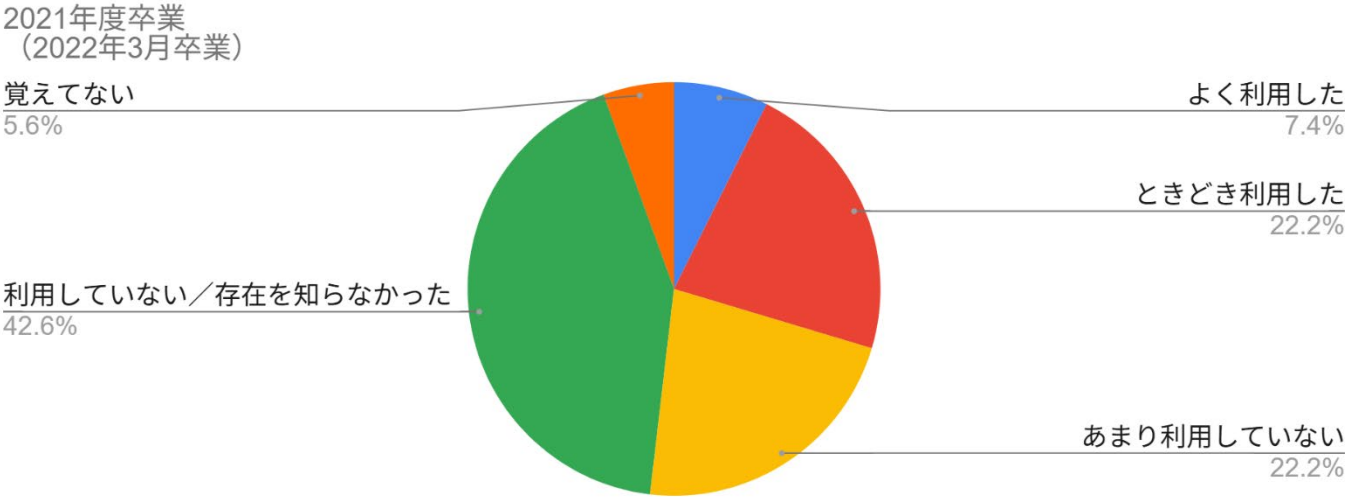
＜そう思わない・あまりそう思わない＞

グループレッスンにおいて、受講生ごとの指導時間に差が生じ、十分なレッスンを受けられなかったとの意見があった。限られた授業時間の中で指導時間が公平に確保されず、受講条件に不均衡を感じたとの声が見られた。

15. 在学中に、大学のキャリア支援を利用したことがありますか。







16．利用した、または利用しなかった理由があれば教えてください。【任意】　※要約版

＜よく利用した・ときどき利用した＞

面接練習や求人情報の確認、就職相談など、具体的な就職活動の支援を受けられたことを評価する意見が見られた。特に、身近に相談できる先輩や教員がいない中で、学生支援課を相談先として活用していたとの声があった。

一方で、担当者との相性や支援内容の分かりにくさ、コロナ禍の影響などにより、十分に利用できなかったとの意見もあった。また、支援を受けながらも、最終的には自ら就職先を見つけたとの声も見られた。

＜あまり利用していない＞

キャリア支援を十分に活用しなかった理由として、当時は就職や自身のキャリアについて具体的に考えておらず、支援を自分事として捉えられていなかったとの意見が見られた。また、大学院進学を予定していたため、就職支援ではなく進学関連の説明会のみ利用したとの声もあった。

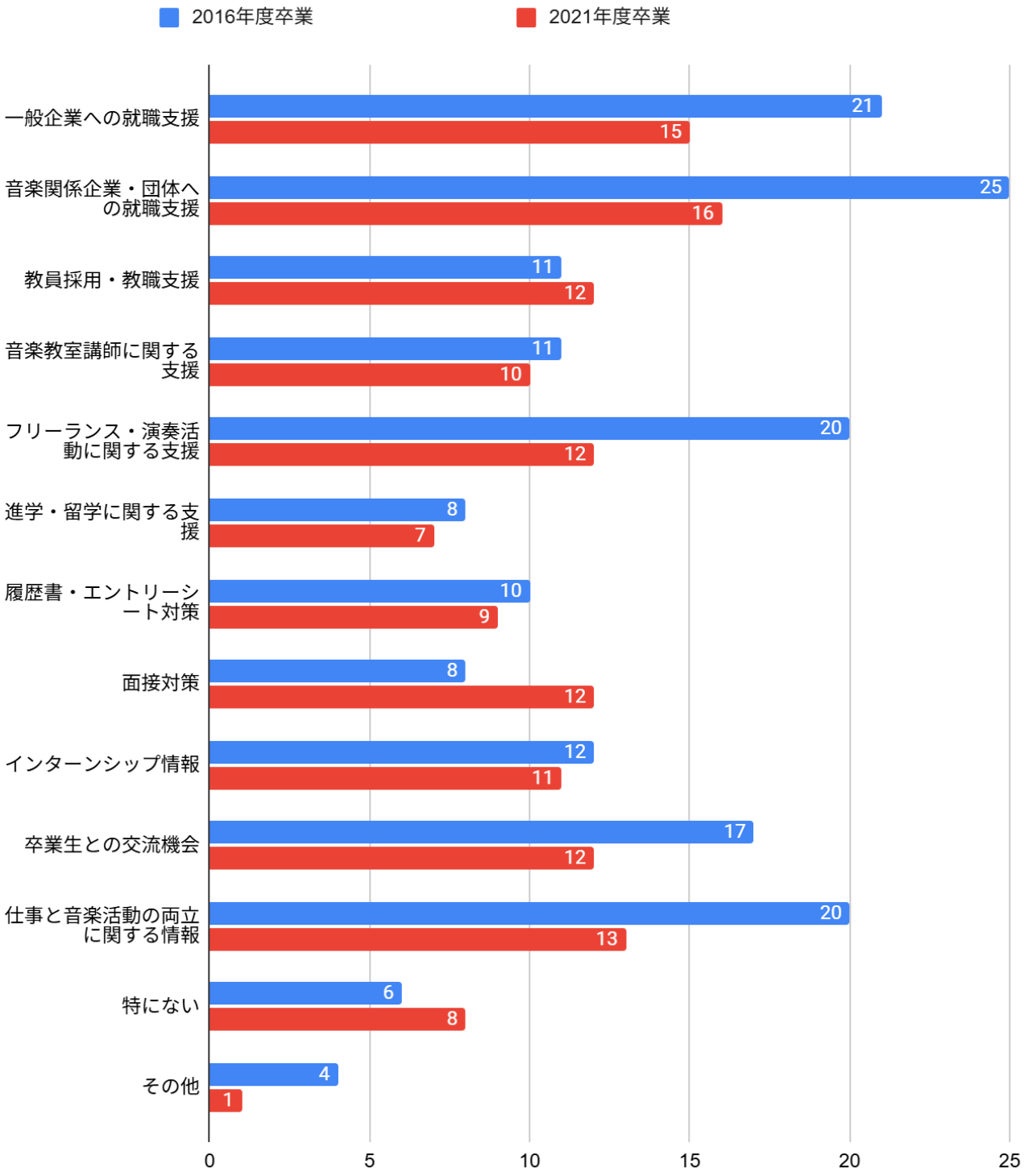
一方で、一度相談したものの納得のいく回答が得られず、その後の利用につながらなかったとの意見も見られた。

＜利用していない・存在を知らなかった＞

キャリア支援を利用しなかった理由として、当時は就職を考えておらず、フリーランスでの演奏活動や作曲活動、オーディション・コンクールへの挑戦など、自身で進路を決めていたとの意見が見られた。また、卒業を優先していたことや、一般企業志望ではなかったため必要性を感じなかったとの声もあった。

一方で、キャリア支援自体の存在や具体的な支援内容、利用するタイミングを知らなかったとの意見が複数見られ、周知不足を指摘する声があった。そのほか、対応の丁寧さやスタッフの接し方、サポートや告知が後手に回っているとの不満、専攻の特性上キャリア支援を利用しにくかったとの意見も見られた。

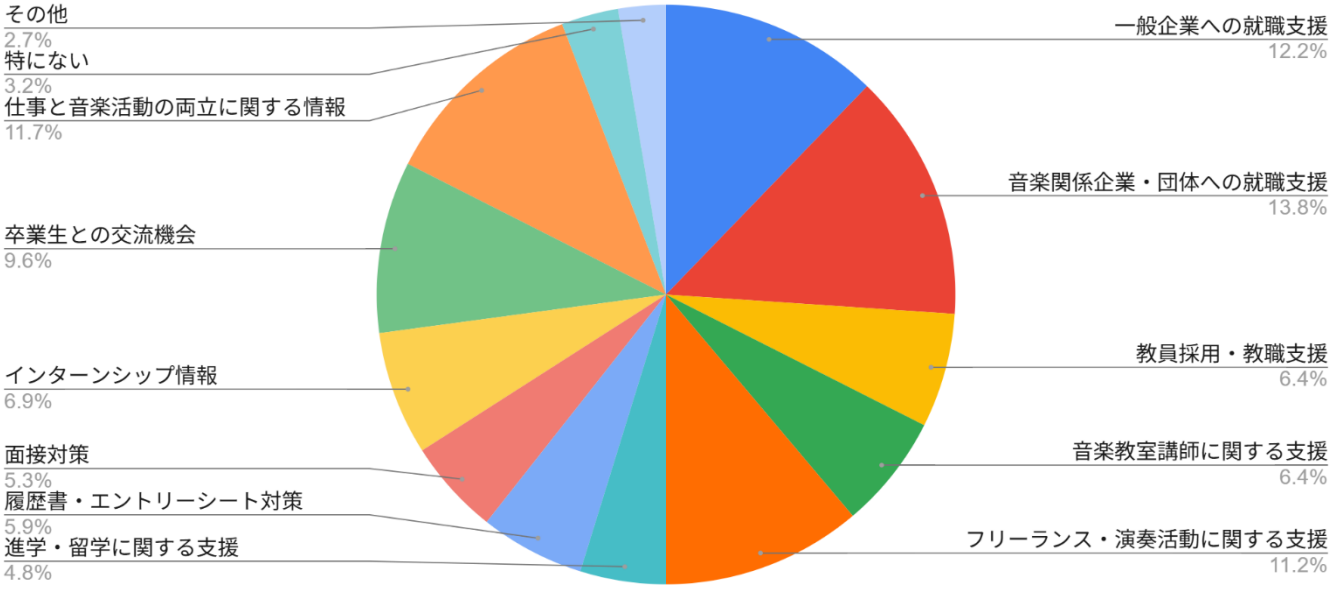
17. 在学中にもっと充実していてほしかったキャリア支援を選択してください。※複数選択可



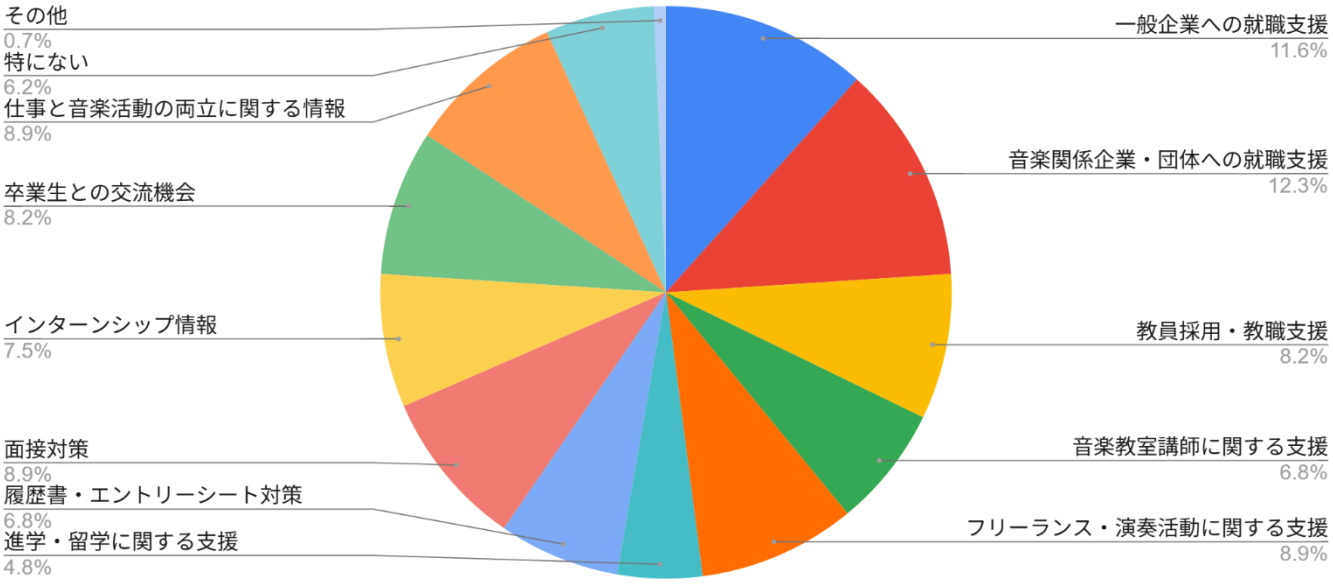
※その他の意見

公務員試験対策や、創業・起業、個人事業主として必要となる税務・確定申告・開業手続き、著作権などの権利関係について、より実践的な講座や情報提供を求める意見が見られた。また、フルタイムのミュージシャンを目指す学生に向けたミュージックビジネスに関する授業が不足していたとの声もあった。そのほか、大学院進学に関する奨学金制度や返還免除の可能性など、進学判断に影響する情報を在学中に知りたかったとの意見も見られた。

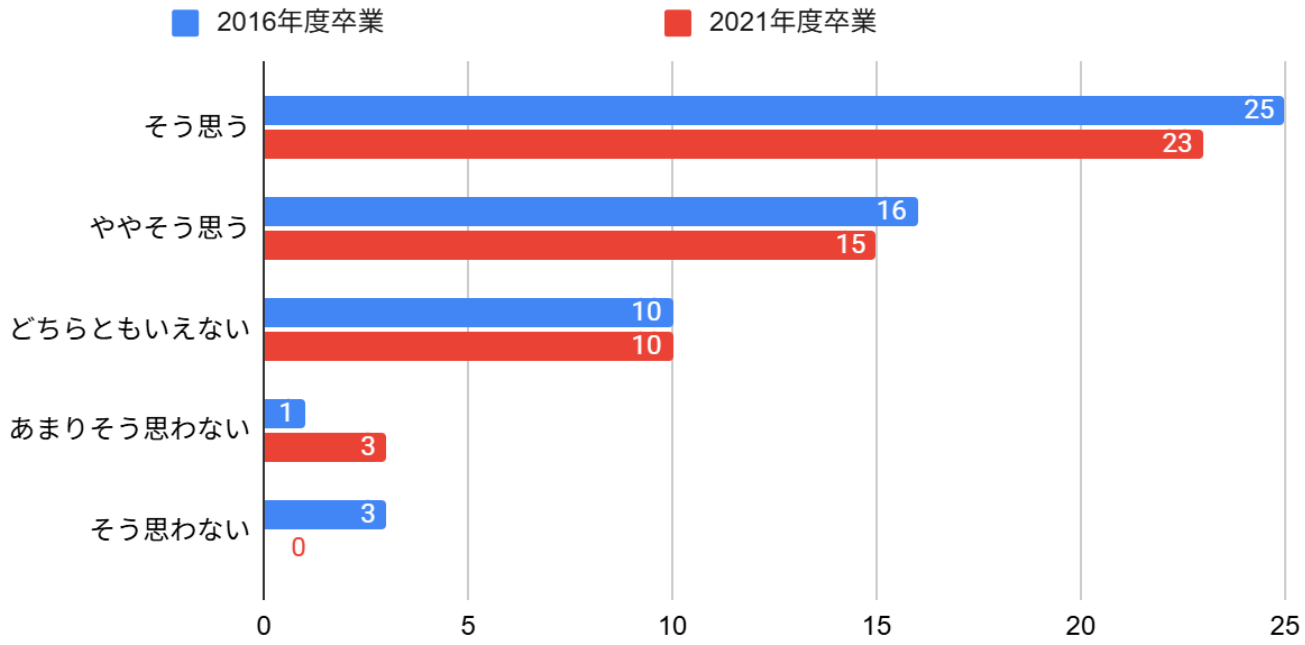
2016年度卒業
（2017年3月卒業） と

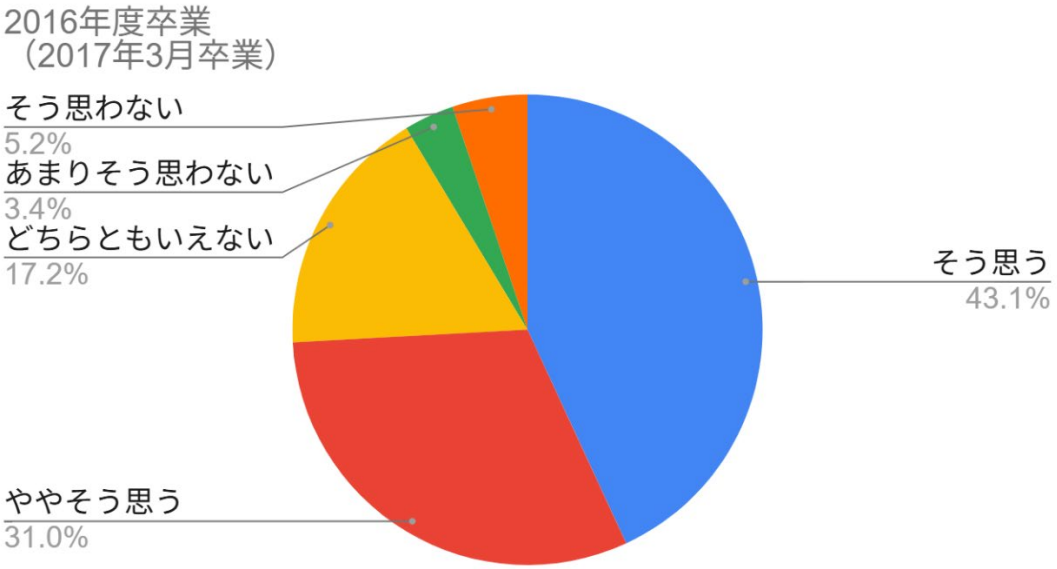


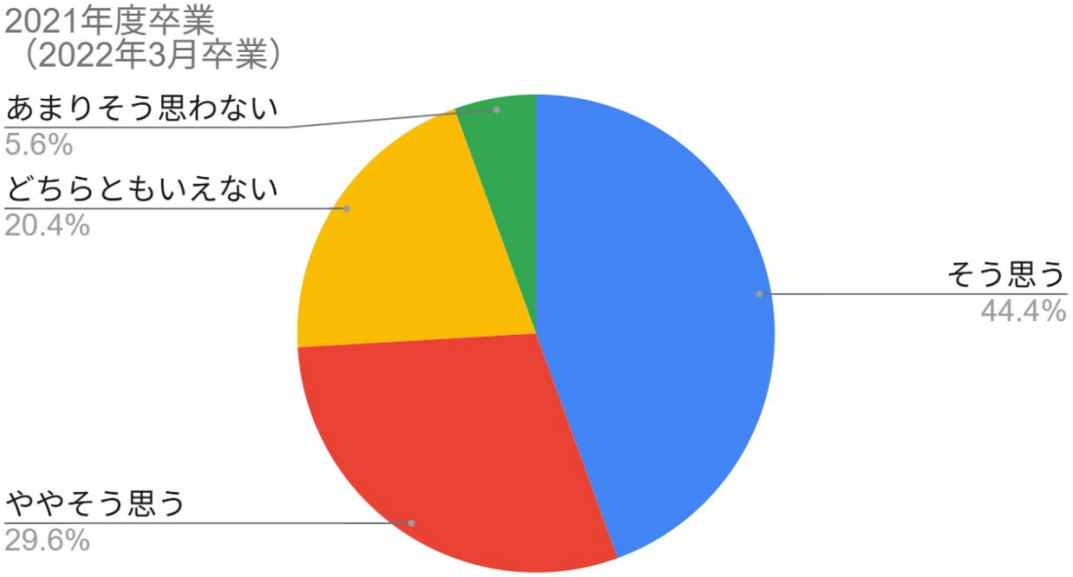
2021年度卒業
（2022年3月卒業） と



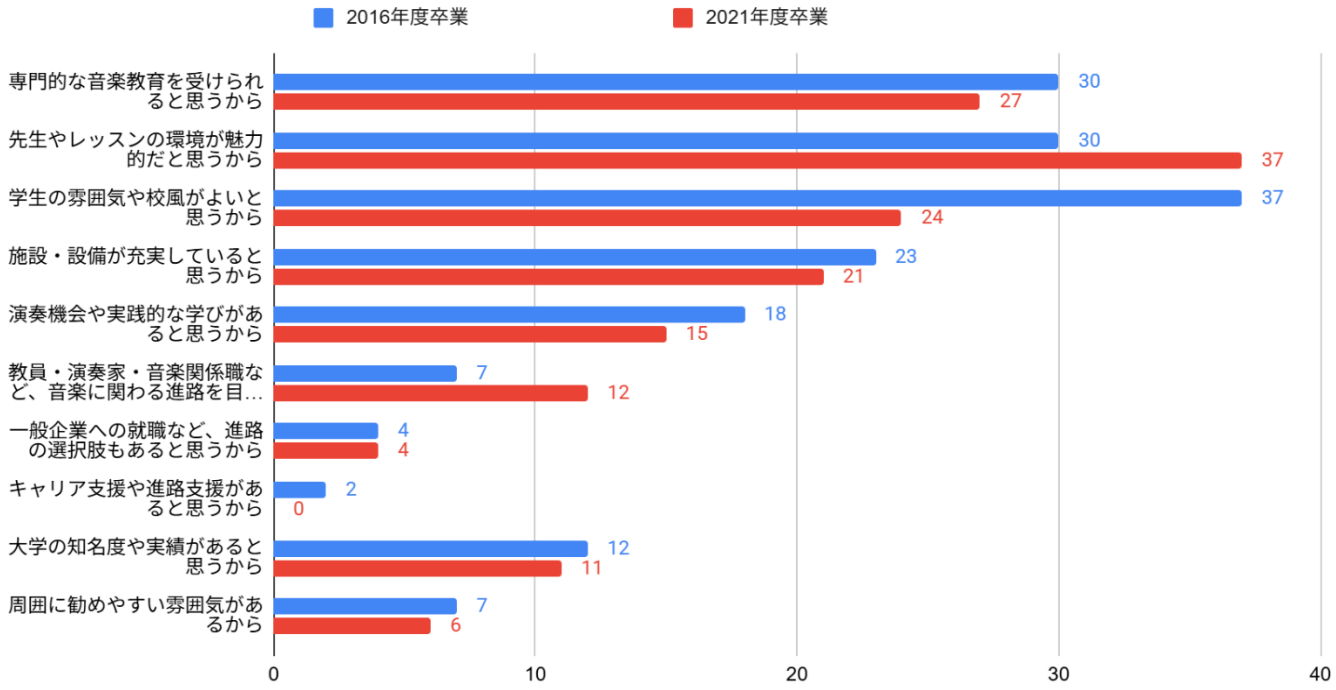
18.音楽大学への進学を考えている方に、国立音楽大学を勧めたいと思いますか。

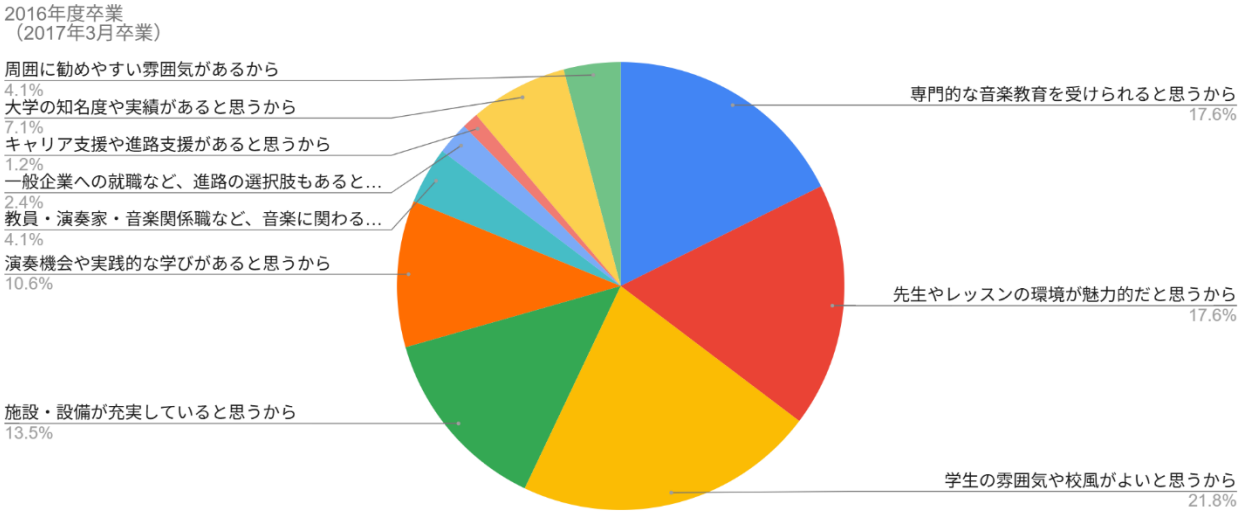


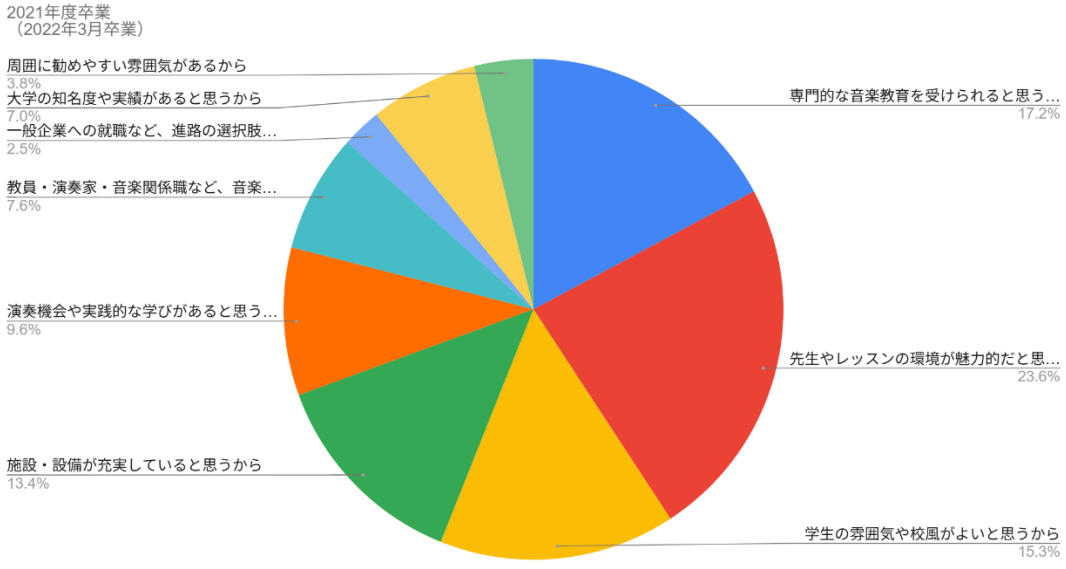




19. Q18 にて「そう思う・ややそう思う」と回答した方へ伺います。
回答した理由として、当てはまるものを選択してください。※複数選択可







20. Q18 にて「そう思う・ややそう思う」と回答した方へ伺います。

具体的な理由や経験がございましたらご記入ください。【任意】※要約版

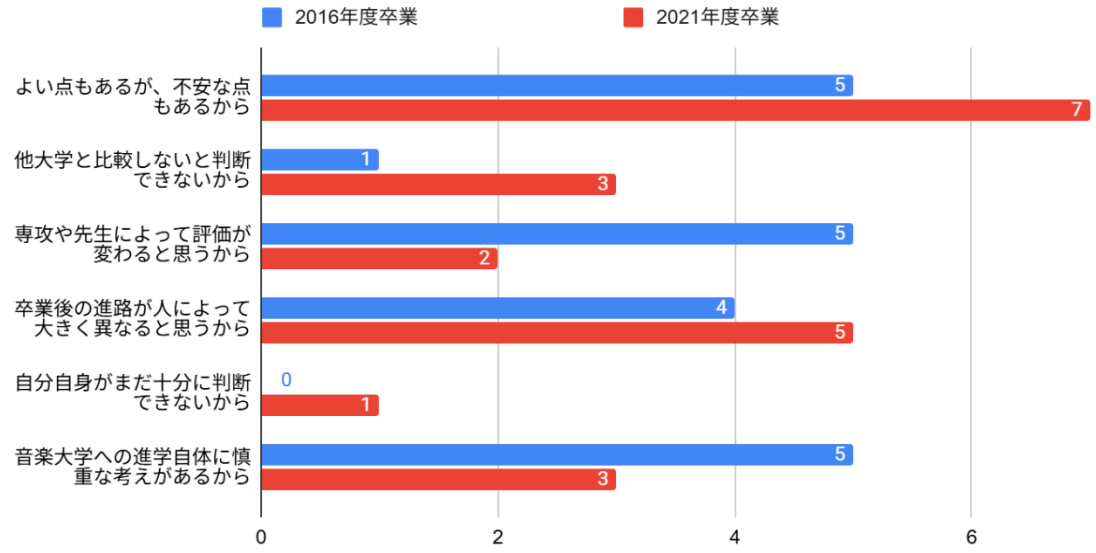
国音で学んだ音楽教育や指導法が、卒業後の保育・教育現場で具体的に活かされているとの意見が見られた。リトミックや音楽活動の際に、在学中の教授の教え方や声掛けを思い出して実践しているとの声や、ゼミでボディパーカッションに出会ったことをきっかけに、卒業後も専門家との研修や活動につながったとの意見があった。

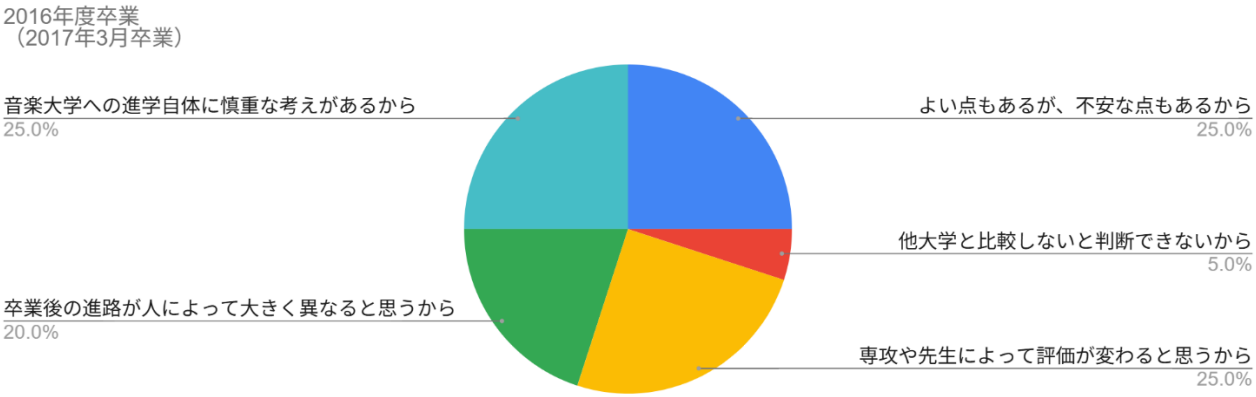
また、質の高い演奏や音楽に日常的に触れられる環境、音楽教育を専門的に学べる環境、多様な有志活動や優秀な仲間との出会いが、現在の指導力や音楽観の形成につながっているとの評価も見られた。特に、設備、レッスン環境、図書館については、卒業後に他の音楽大学と比較して改めて良さを実感したとの声があった。

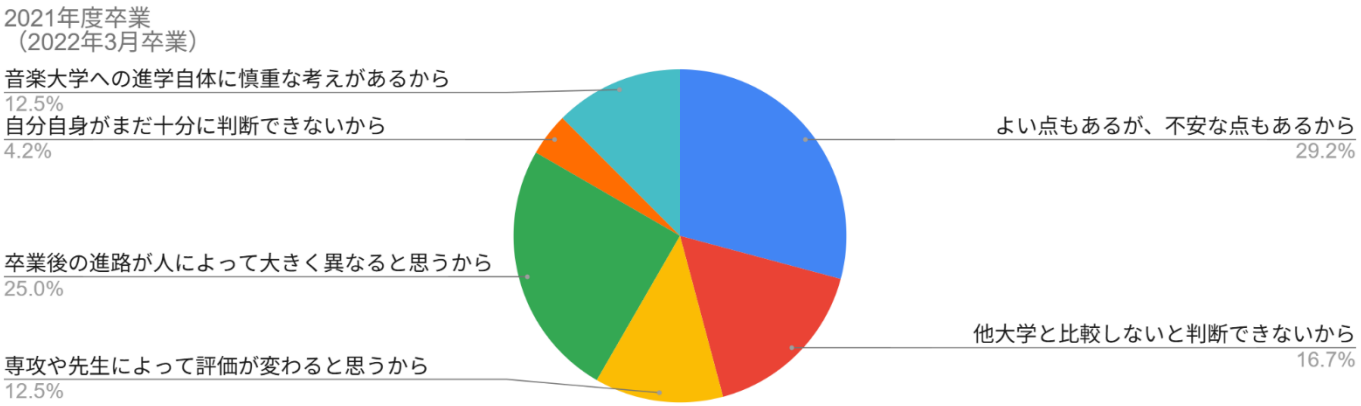
そのほか、自分のペースでのびのびと学べる校風、現代音楽に触れられる環境、声楽分野における伝統や実績、「生き方」に関する学びを評価する意見もあった。一方で、都心から離れた立地については不便さを感じるとの指摘があった。

21.Q18 にて「どちらともいえない」と回答した方へ伺います。

回答した理由として、当てはまるものを選択してください。※複数選択可







22. Q18 にて「どちらともいえない」と回答した方へ伺います。
　　具体的な理由や経験がございましたらご記入ください。【任意】※要約版

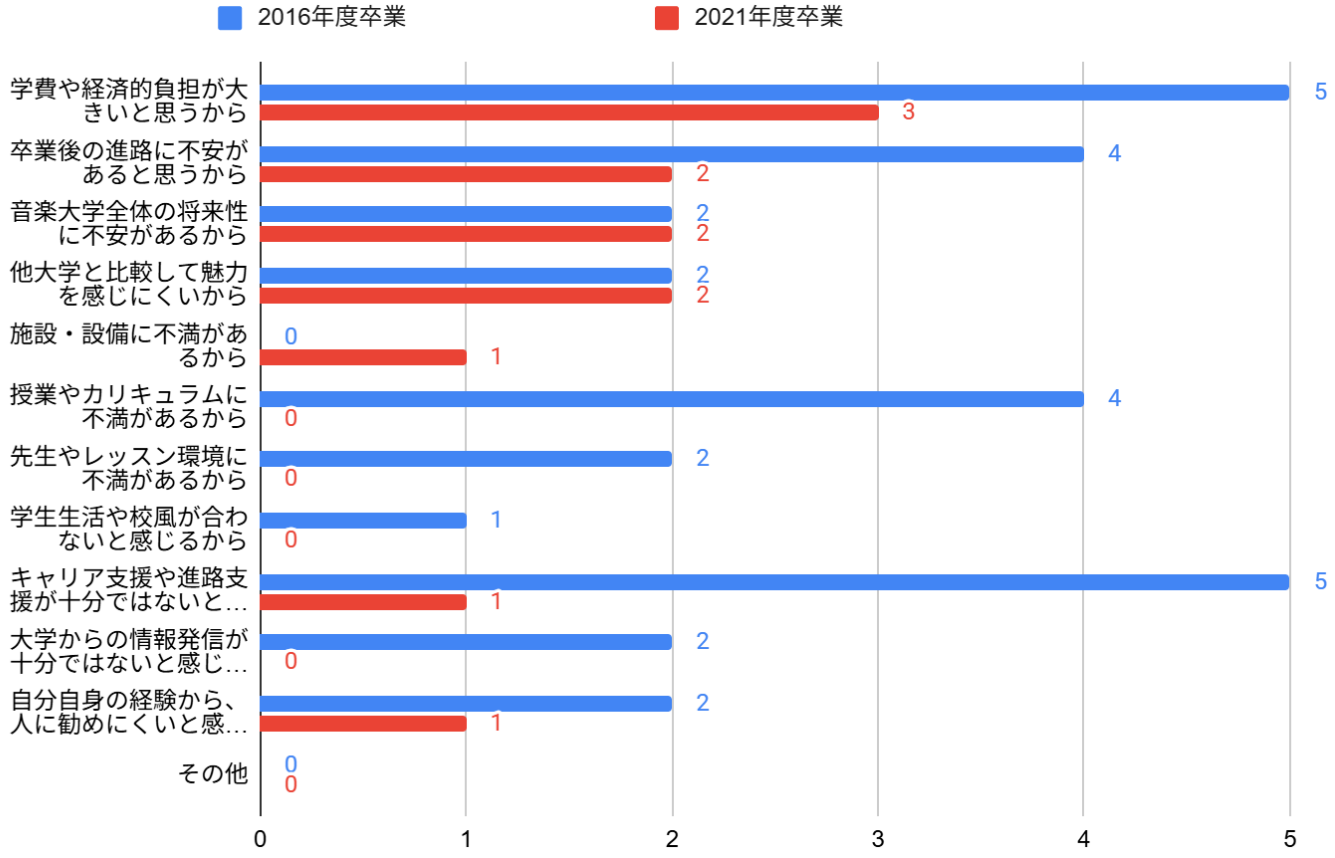
カリキュラムについては、自由度が高く自分のペースで学べる点を評価する一方で、所属するクラスや周囲の環境によって学びの質に差が生じやすいとの意見があった。また、希望する進路やキャリアを実現するために、必要な過程を学生と一緒に考えるような支援体制や、既存の支援制度を学生に広く周知し、相談しやすくする仕組みを求める声も見られた。
卒業後の進路については、他大学には多様な学科や進路支援があることから、自分の希望する将来像に合った大学・学びを選ぶことが重要だとの意見があった。一方で、「国音の雰囲気が好きな人には勧めたい」と、大学の校風を評価する声もあった。
また、教員やピアニストなど専門性を活かす進路には適した環境である一方、一般企業への就職を希望する学生については、音楽大学卒という経歴から「なぜ音楽の道に進まなかったのか」と問われるなど、就職活動上の難しさを感じるとの意見も見られた。

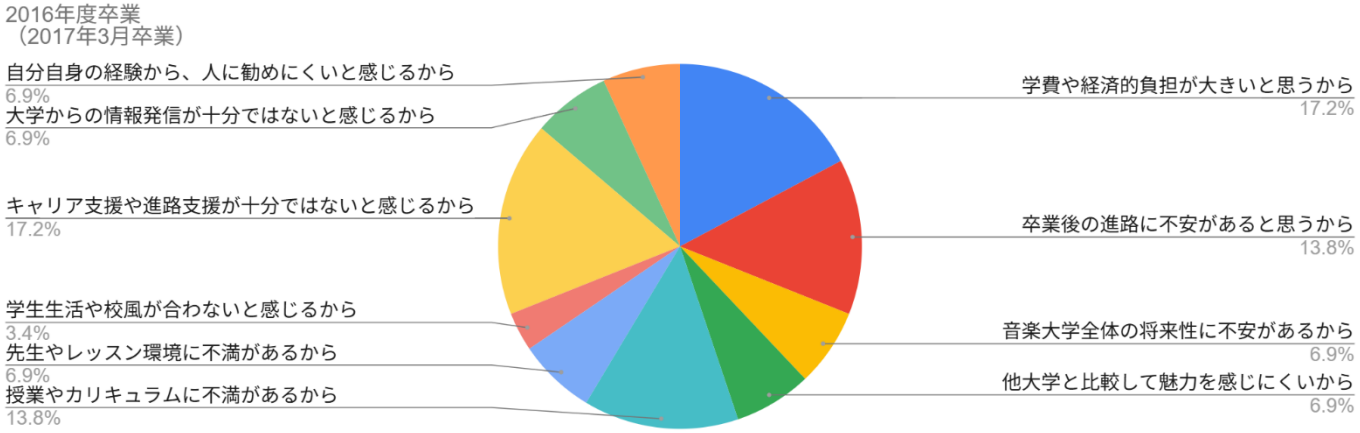
23. Q18 にて「どちらともいえない」と回答した方へ伺います。
　どのように改善されれば進めたいと思いますか。【任意】※要約版

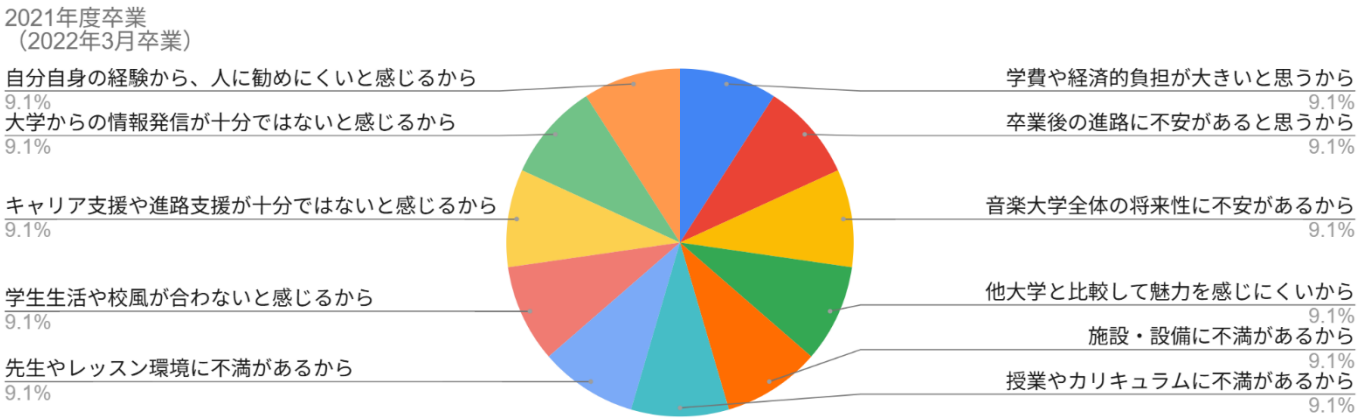
教育内容については、オペラ演習など、より実際の現場に近い実践的な授業を求める意見が見られた。
また、演奏学科の学生であっても一般企業への就職に対応できるよう、パソコンスキルなど社会人として必要な基礎的能力を身につけられる教育を求める声があった。就職への不安から、卒業生の具体的な就職活動や進路について話を聞く機会を増やしてほしいとの意見も見られた。
さらに、音楽を活かせる幅広い職業についての情報提供や、企業との接点、インターンシップなど、卒業後の多様な進路につながる機会を充実させてほしいとの要望があった。音楽大学卒業後にもさまざまなキャリアを選択できることが見えるようになれば、大学をより勧めやすくなるとの声もあった。
そのほか、練習室の有料利用を廃止してほしいとの要望も見られた。

24. Q18 にて「そう思わない・あまりそう思わない」と回答した方へ伺います。

回答した理由として、当てはまるものを選択してください。※複数選択可







25. Q18 にて「そう思わない・あまりそう思わない」と回答した方へ伺います。
　具体的な理由や経験がございましたらご記入ください。【任意】※要約版

大学が掲げる「自由・自主・自律」について、自主的に行動する力や自律性を育むための具体的な教育・支援が十分ではなかったとの意見があった。また、一般企業への就職を目指す学生については、国音内だけでは人脈形成やキャリア形成につながりにくく、他大学の学生との交流を自ら求める必要があったとの指摘も見られた。
さらに、一部の専攻・研究室では、先輩後輩関係や教員への対応、授業・行事における暗黙のルールなど、旧来型の慣習が残っていたとの具体的な指摘があった。特に、先輩や教員への過度な配慮、学園祭への事実上の参加強制、演奏活動よりも研究室内の慣習や役割が優先される場面があり、人間関係や学生生活に負担を感じたとの声が見られた。
そのほか、こうした慣習を含め、大学運営全体について「旧時代的」「保守的」と感じたとの意見もあった。

26. Q18 にて「そう思わない・あまりそう思わない」と回答した方へ伺います。
　どのように改善されれば進めたいと思いますか。【任意】※要約版

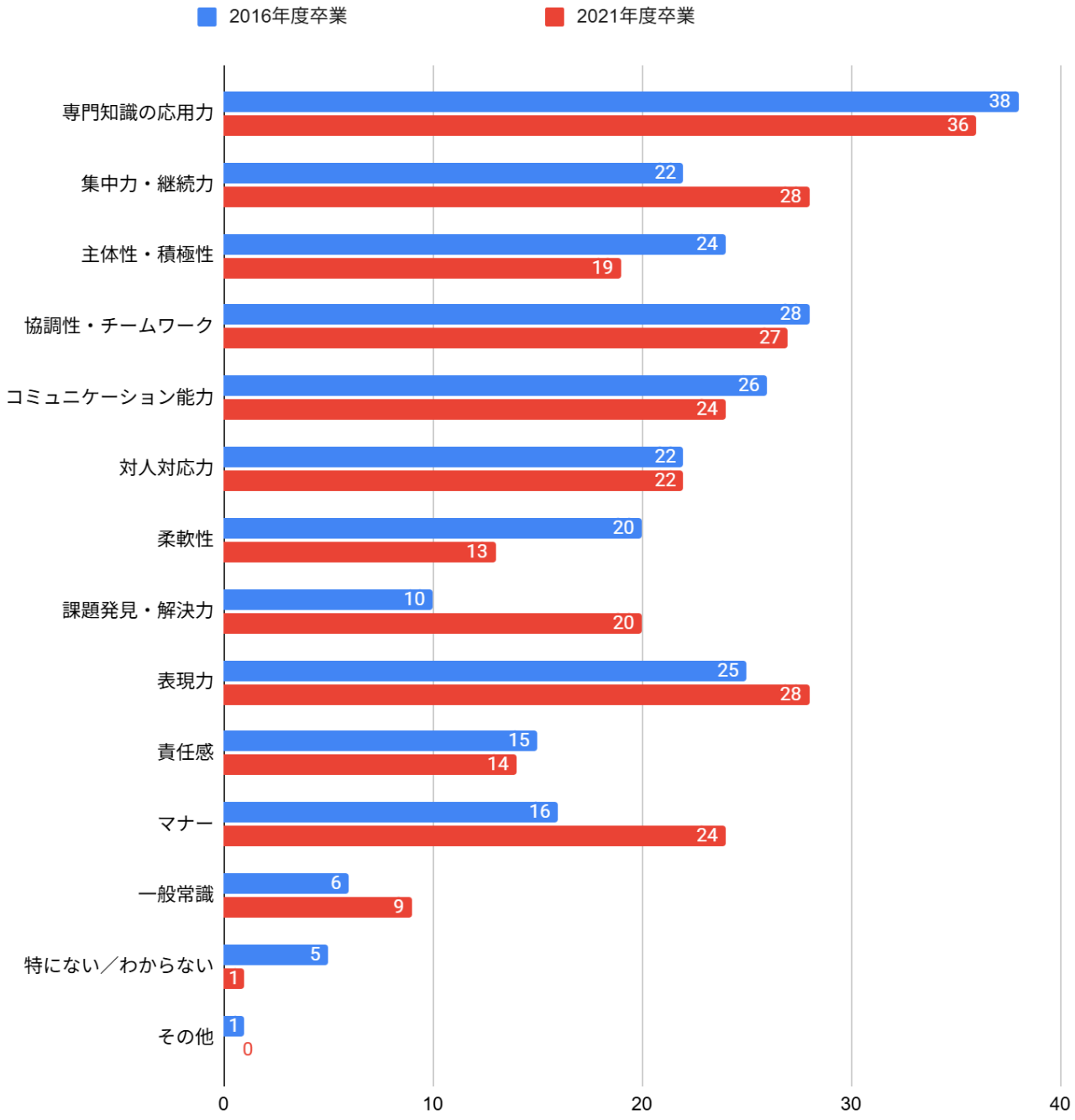
大学の立地や内輪的な雰囲気、在学中から一部の活躍する学生・卒業生に依存しているように見える点について、改善を求める意見があった。

また、学生支援や教育環境については、通学支援、寮のあり方、食堂・カフェなど生活面の環境整備に加え、一人ひとりの進路に大学がより丁寧に向き合う体制を求める声が見られた。特に、卒業後を見据えた就職支援をカリキュラムに組み込むことや、学生数の多さによってオーケストラ等の実践機会が限られないようにすることが求められている。

教育面では、主科・副科レッスンで使用する教材を学費の中で提供・共有できる仕組みや、教員がシラバス・年間指導計画を明確にし、必要な教材や指導内容を事前に整えることを求める意見があった。また、演奏家としての実績だけでなく、教育者としての指導力や人間性も重視した教員配置・大学運営が必要との指摘も見られた。

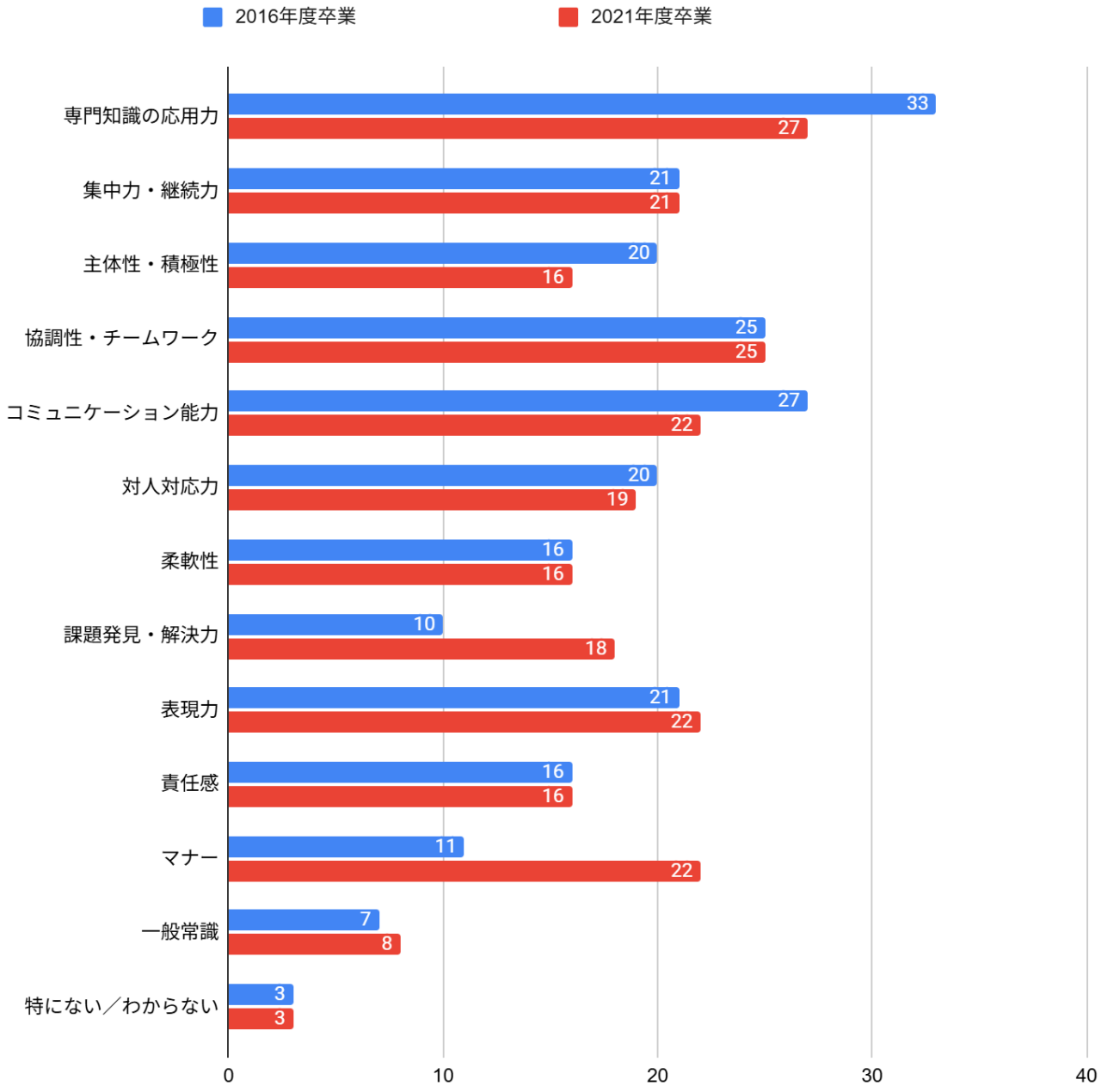
さらに、教員に権限が偏りすぎているように見える点や、大学運営全体の刷新、教授陣の世代交代を求める声もあった。少子化が進む中で、今後も選ばれる大学であり続けるために、教育・支援・運営の仕組みそのものを見直す必要があるとの危機感も示されている。

27. 国立音楽大学での学びや経験で身についたと思うことを選択してください。※複数選択可



※その他:「生き方」や「在り方」

28. 現在の仕事や活動において国立音楽大学での学びや経験が役に立っていると感じる項目を選択してください。
※複数選択可



29.国立音楽大学へのご意見、今後期待すること、現在キャリアについて考えている在学生に伝えたいことなどがございましたら、ご自由にご入力ください。【任意】※要約版

在学生に対しては、音楽に関わる仕事だけに進路を限定せず、在学中に培った継続力・表現力・専門性などを自分の強みとして捉え、幅広いキャリアの可能性を考えてほしいとの意見が多く見られた。また、人とのつながりや、音楽を続けたいと思った原体験を大切にしながら、自分らしい生き方・キャリアを選んでほしいとのメッセージもあった。

キャリア教育については、一般企業への就職、フリーランス音楽家、IT 業界など、音楽以外も含めた多様な進路を具体的に知る機会を求める声が見られた。特に、ビジネスマナーやメールの書き方、フリーランスとしてのお金・税金の知識、音大生から一般企業へ就職した卒業生との交流など、卒業後の実生活に直結する教育・支援の充実が求められている。また、過去の就職相談で正規雇用につながる選択肢を十分に提示してもらえなかったとの意見もあった。

教職を目指す学生に対しては、音楽科だけでなく小学校全科を含めた免許取得や教員採用試験対策を在学中から幅広く行うこと、非常勤講師という進路も含めて実際の学校現場を知ったうえで準備することが重要との経験談が寄せられた。

教育環境については、個人レッスンの時間・回数を増やしてほしいとの要望や、試験伴奏者への謝礼など学費以外の負担を減らし、学生が平等に学べる仕組みを求める意見があった。また、電子キーボードなど、卒業後の実際の演奏現場で必要となる機材・音響面の実践的な経験を授業に取り入れてほしいとの提案も見られた。

そのほか、サマーセミナーの申込期間延長や、卒業生が母校で再び集まり演奏できる機会の継続を求める声があった。また、卒業生自身が企業の採用担当者や音大生向け就職支援に関わる立場となり、自らの経験を在学生の支援に活かしたいという申し出も見られた。

大学に対しては、母校への愛着を示しながら、少子化の中でも今後長く発展していくことを願う声も寄せられている。